人も活き活き、地球も生き生き―新ユーデコスタイル
新Ud＆Eco style

# 環境・社会報告書
Environmental and Social Report

株式会社イトーキ
お客様相談センター 0120-164177
http://www.itoki.jp/

A0510／1106①CGP

2011
http://www.itoki.jp/

# CONTENTS


編集方針・会社DATA
トップメッセージ …… 4

## 特集

社会課題をとらえるイトーキの製品・ソリューション …… 6
1 もっと創造的なオフィスへ。 …… 8
人が活き活きと働けるチェア …… 10
2 エコワークプレイス、エコワークスタイルへ。 …… 12
森と人、街を生き生きさせる地域材の活用 …… 13
オフォスの新しい照明設計 …… 14
環境に貢献するものづくり …… 15
環境にやさしい施設移転/空気質のユニバーサルデザイン …… 16
新Ud&Eco style …… 17

## マネジメント

コーポレート・ガバナンス …… 18
リスクマネジメント/コンプライアンス …… 19

## 社会性報告

お客様とのコミュニケーション …… 20
販売代理店とのパートナーシップ …… 21
従業員とのコミュニケーション …… 22
株主とのコミュニケーション …… 24
社会とのコミュニケーション …… 25

## 環境報告

環境方針と環境中期計画 …… 26
環境目標と2010年度の実績 …… 27
地球温暖化防止 …… 28
資源の有効活用 …… 30
有害物質の最小化 …… 32
グループ企業の環境活動 …… 33
事業活動と環境負荷 …… 34
環境パフォーマンス …… 35


## はじめに・編集方針

本報告書は、企業コンセプトである新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)を追求し、「人も活き活き、地球も生き生き」する社会を目指すイトーキの企業活動を、多くの方にわかりやすくお伝えするものです。

2011年版では、近年のオフィス空間を取り巻くさまざまな社会課題に向けてイトーキがどのような価値や解決策をご提供できるのかを紹介しています。

また、2010年度の社会活動、環境活動のご報告では、特に2010年度に力を入れた取組みや、イトーキの事業内容から重要と考えられるテーマを抜粋して掲載しています。

今後も、ステークホルダーの皆様との対話を大切にし、環境・社会活動とその情報公開に努めていきます。Webサイトにはアンケートもご用意していますので、是非ご意見・ご感想をお寄せください。

## 幅広いステークホルダーの方々に向けてWebサイトにより詳しい情報を公開します。

Webサイトに環境・社会活動にかかわるすべての情報を掲載し、冊子はダイジェスト版としています。冊子のページ見出しごとにWebアドレスを記載しましたので、ぜひあわせてご覧ください。また、デザイン面では読みやすい誌面を目指し、書体はUDフォントを採用し、図版はコントラストを明快にしています。

■ 環境・社会報告書 2011（冊子）

環境・社会活動において重要性の高い取組み、2010年度の取組みを中心に紹介しています。

■ 環境・社会報告（Webサイト）

冊子に掲載できなかった詳細情報も含めて、環境・社会活動内容のすべてを網羅しています。

■ 年次報告書（Webサイト）

経済性報告については、別途「年次報告書」を発行し、Webサイト「IR情報」に掲載しています。

| | |
|---|---|
| ホームページ | http://www.itoki.jp/ |
| Ud&Eco style | http://www.itoki.jp/udeco/ |
| 環境・社会報告 | http://www.itoki.jp/udeco/environment/ |
| IR情報 | http://www.itoki.jp/company/ir/ |

■ 主な報告対象者
お客様、代理店、株主・投資家、従業員、調達先、グループ会社、事業所近隣住民（敬称略）

■ 報告対象組織
株式会社イトーキ、連結子会社および一部子会社
※連結子会社および一部子会社についてはP33をご覧ください。

■ 報告対象期間
2010年度（2010年1～12月） ※活動については一部2011年度を含みます。

■ 発行
2011年6月（次回発行は2012年6月の予定です）

■ 報告対象分野
環境保全活動、社会活動

■ 準拠あるいは参考にするガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン（2007）」
環境省「環境報告書の記載事項等の手引き（2007）」
環境省「環境会計ガイドライン（2005）」


■連絡先
環境管理部 Tel：03-3206-6201 Fax：03-3206-6290
Mail：eco@itoki.jp


## 会社概要

会社概要 http://www.itoki.jp/company/

| | |
|---|---|
| 社名 | 株式会社イトーキ |
| 英文社名 | ITOKI CORPORATION |
| 本社所在地 | 〒536-0002 大阪市城東区今福東1-4-12<br>Tel.06-6935-2200/Fax.06-6935-2268 |
| 創業 | 1890（明治23）年12月1日 |
| 設立 | 1950（昭和25）年4月20日 |
| 資本金 | 5,277百万円 |
| 代表 | 代表取締役会長 山田 匡通<br>代表取締役社長 松井 正 |
| 事業所数 | 事業所42カ所、配送センター8カ所、工場7カ所 |
| 従業員数 | 2,119名（単体 2010年12月31日現在） |

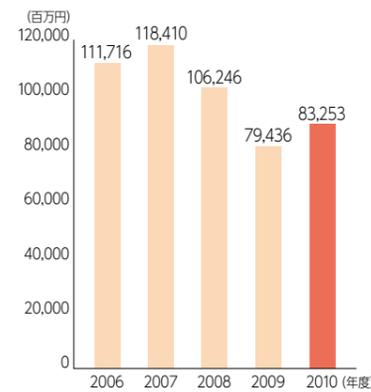
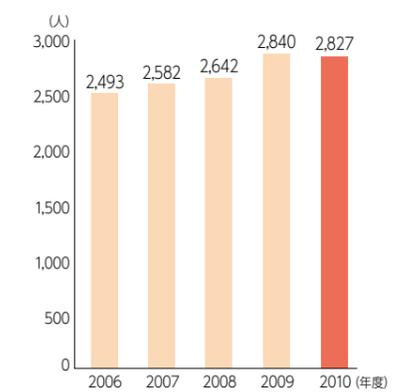
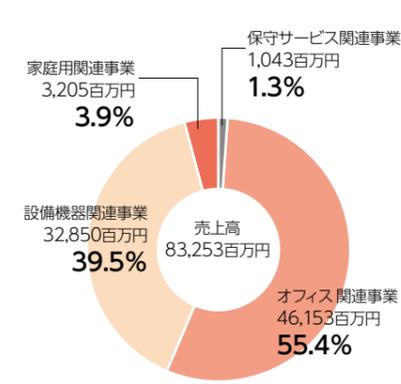
## 財務データ

業績・財務内容 http://www.itoki.jp/company/ir/

■ 売上高推移（連結）

■ 利益推移（連結）

（百万円）

| 年度 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|---|---|---|---|---|---|
| 経常利益（損失） | 5,191 | 5,864 | 2,423 | △4,901 | 533 |
| 当期純利益（損失） | 3,191 | 2,850 | 798 | △8,272 | 186 |

■ 従業員数推移（連結）

■ 売上高構成比（財務セグメント別）

■ 関係会社の状況（連結子会社・持分法適用関連会社）

## 事業内容

事業紹介 http://www.itoki.jp/company/

**オフィス関連事業**●これからのオフィスに求められる感性や創造性を高めるクリエイティブな空間、人・物・情報を保護するセキュリティ&セーフティな環境を、さまざまな製品・ソリューションにより実現します。

**オフィス建材関連事業**●フリーアクセスフロアをはじめ、移動・可動間仕切など、オフィスビルや公共施設などに、施工性・機能性・デザイン性を兼ね備えた内装建材設備を提供しています。

**設備機器事業**●工場・物流施設、研究施設、原子力施設、金庫室、商業施設などの専門施設を、先進技術を駆使した効果的なシステム機器・設備でサポートします。

**公共施設事業**●医療・高齢者施設、学校、図書館、美術館、博物館、劇場・ホールなど、さまざまな施設に最適な空間・環境づくりを提案します。

**ホーム家具関連事業**●学習机・学習家具、書斎・SOHO用家具、リビング・ダイニング家具、可動式収納システムなどにより、さまざまなパーソナル空間を演出します。

# 皆様と感動を分かち合える企業を目指して

株式会社イトーキ
代表取締役社長 松井 正

初めに、先の東日本大震災は、未曾有の大災害となりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

当社におきましても、震災後はさまざまな課題が発生しましたが、お客様、販売代理店様、調達先様の多大なるお力添えにより、社員一丸となって一つ一つ解決することができました。ご支援を賜りました皆様に改めて感謝の意を表します。

## 創業者の志を次代へ引き継ぐ

イトーキは、1890年(明治23年)に、大阪で伊藤喜商店として創業して以来、日本のオフィスの歴史とともに歩み、ともに発展してきました。創業者・伊藤喜十郎は「便利な発明を世の中に広げ、人々に喜ばれる仕事をしたい」という志を持って、他に先んじてホチキスや魔法瓶などの輸入・販売を行いました。加えて、最初の支店を東京ではなく福岡に置き、アジアを重要なマーケットとして捉える先見性を持っていました。イトーキは、常に創業者の壮大な志と時代を先取りする慧眼を引き継ぎ、育んでいます。

現在、企業価値を高める知的創造の場として、オフィスの重要性が高まる中で、イトーキは、オフィスづくりに関わるさまざまな製品の開発・サービスを通じて、質の高いビジネス環境の創造に挑戦しています。また、セキュリティ、物流、医療・福祉施設、研究施設などの各分野にも取組み、今後の社会から求められる空間づくり、環境づくりを幅広く提案していこうとしています。

## 人と地球を見つめ続けて

「人が主役の環境づくり」をテーマにオフィス環境を提案してきたイトーキは、つねに人や地球環境へのやさしさを大切にした企業経営を行ってきました。1999年にはユニバーサルデザインとエコデザインを融合したUd&Eco style(ユーデコスタイル)「人と地球にやさしい」を企業コンセプトに掲げ、社会的責任や地球環境に重きを置いた企業であることをいちはやく宣言しました。そして2009年には、従来のユーデコスタイルをさらに進歩させ、新Ud&Eco style「人も活き活き、地球も生き生き」を掲げています。イトーキは、「人も活き活き、地球も生き生き」する社会を実現する製品・サービス、空間づくりによって、すべてのステークホルダーと感動を分かち合っていきたいと考えております。

人も地球もいきいきする社会への私たちの想いを広くお伝えするために、本報告書の特集では、イトーキが新Ud&Eco styleを通じて、これからのオフィスをめぐる課題にいかに関わっているのかを紹介する記事を掲載しています。是非、ご一読いただき、イトーキが取組む価値創造をご理解いただきたいと思います。

新Ud&Eco styleの思想に基づいた製品·ソリューションは、チェアにおけるカーボンオフセット、あるいは地域材の活用ソリューションなど、さまざまな形で生まれてきています。2011年も、新Ud&Eco styleの一層の推進をはかるべく組織体制を強化してまいります。

## 企業体質を強化し、さらなる貢献へ

日本企業を取り巻く環境は厳しく、景気の先行きは依然不透明な状況にあります。

このような経営環境のもと、当社は2010年12月に創業120年を迎え、2011年を新たなスタートとする、2013年までの「中期経営計画ローリングプラン2013」を策定しました。

この中期経営計画ローリングプラン2013では、市場変動に耐え安定した収益基盤の再構築に徹底して取組みながら、現在の強みと将来の展開を見直し、成長分野・重点分野へと経営資源をシフトし、成長軌道へ軸足を移していきます。

具体的には、「生産力の強化」「営業力の強化」「コア事業であるオフィス事業の安定成長」「建材事業の育成・強化」「研究施設事業の育成・強化」「海外戦略の拡大展開」について、各々の施策を着実に実施展開いたします。

時代が移り変わり、社会や経済環境が変貌を遂げ、仕事の手段やスピードが変わっても、イトーキの原点は創業時の「顧客第一主義」です。お客様のためになり、社会のためになること。これが私たちイトーキの持つDNAであり、世の中に役立つ価値ある企業になることが使命であると考えております。今後ともさらなるご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2011年6月30日

### ITOKI 企業理念

1. 創業者の旺盛な開拓精神を持ち続けよう

1. あらゆることに創意と工夫をこらし、
新しい価値を生み出そう

1. 正しい商道に徹し、勤勉と努力を惜しむまい

1. 皆で力を合わせ苦難を切り拓いて、
繁栄をもたらそう

1. 常に業界NO.1を目指そう

1. 自己を実現し、悔いなき人生を送ろう

# 特集 社会課題をとらえる イトーキの製品・ソリューション

さまざまな環境変化により、社会構造が大きく変化しつつあります。生産や消費などの社会の活力を維持していくには、女性や高齢者、障がいのある方などの一層の社会参画を促すことが求められます。また、インターネットによるコミュニケーション革命も、社会構造の変化を生み出しています。企業活動においても個人生活においても、時間と空間を超える活動が可能になり、新たなビジネスモデルやライフスタイルが次々に誕生し、多様なワーカーが生まれています。

こうした中で、社会から強く求められているのが、年齢や国籍や経験を問わず、誰もが快適に利用できる「ユニバーサルデザイン」の思想による物づくり、空間づくりです。

また「ユニバーサルデザイン」と並んで「エコロジー」も社会の基本思想になり、低炭素社会を実現する地球と人へのやさしさは、未来のための価値基準として認められています。

この特集では、社会から求められる「ユニバーサルデザイン」と「エコロジー」をキーワードに、新たなワークプレイス、ワークスタイルを提案するイトーキの活動を紹介していきます。

Workplace
Workstyle

オフィスという創造の場を担う企業として、

## 新しい社会の構築に貢献します。

### もっと創造的なオフィスへ。 P8

多様なバックボーンを持つワーカーが活発にコラボレーションをする「創造的なオフィス」を追求しています。

### 人が活き活きと働けるチェア P10

オフィスの中にあって、人と最も密接に関わりあう存在としてのチェア。人を主役にした個性的なチェアづくりを進めています。

### エコワークプレイス、エコワークスタイルへ。 P12

オフィスに潜む環境負荷要因を徹底分析することから生まれた、独自の10フレームソリューション。

### 森と人、街を生き生きさせる地域材の活用 P13

日本の豊かな森林を未来へ継承するために、地方と都市を結んだ独自の地域材活用ソリューションを展開しています。

### オフィスの新しい照明設計 P14

適材適所に光の配分を配慮した多灯分散方式で、LED光源のタスク＆アンビエント照明を軸にオフィスの省エネルギーを実現しています。

### 環境に貢献するものづくり P15

製品の環境負荷を「見える化」するカーボンフットプリントや、お客様の温室効果ガス抑制活動を支援するカーボン・オフセットに積極的に取組んでいます。

### 環境にやさしい施設移転 P16

校舎やオフィスの移転にかかわる温室効果ガス排出量を計算しオフセットすることで、お客様の環境活動に貢献します。

### 空気質のユニバーサルデザイン P16

健康に暮らせる、化学物質の少ない空間であることを証明するケミレス認証の基準づくりに参加しています。

特集 1

これからのオフィスを提案する

# もっと創造的なオフィスへ。

日本では、企業の創造力を生み出す場として、オフィスに対して常に高い関心が払われてきました。1980年代の終わりから、通産省(現経済産業省)や社団法人ニューオフィス協議会が中心となり、社員の個性(感性・創造性)を活かし、知識創造を誘発するオフィスのあり方を、クリエイティブ・オフィスと名づけ、調査・研究を行ってきました。

イトーキでも、あらゆる面から知識創造型ワークプレイスを探求してきました。そして、働く人の行動や心理を徹底分析する中で到達した次世代のオフィス設計のコンセプトが「モザイク」です。

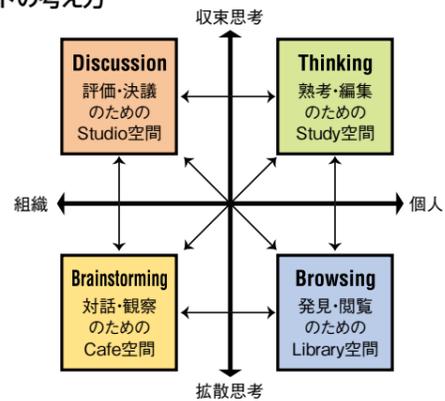
従来のオフィス設計は、「ゾーニング」と呼ばれる考え方が主流でした。執務室、会議室、休憩室、それぞれが設計段階で固定的に区分されていました。つまり変化しないことを前提とした設計だったのです。一方、モザイクは、さまざまな「変化」をキーワードとするものです。

重要なのは、思考モードの変化です。イトーキは創造的なオフィスづくりにおいて「trans.」という独自の視点を掲げてきました。オフィスの活動の主役となる「個人と組織」、そして思考の方向性「収束と拡散」という二つの軸から、4つの思考モード(Discussion/Thinking/Brainstorming/Browsing)とそれを誘発する4つの場(Studio/Study/Cafe/Library)を設定。こうした思考や場を自在に変換する「trans.」が、新たな価値を生み出すという考え方です。

「trans.」の4つの思考モードと4つの場を人の働き方や組織の目的にあわせて、きめ細かくかつスピーディに組上げたり、組み替えたりしようというのが「モザイク」です。

さらに、ビジネス環境の変化もとらえる必要があります。完成したその日から、オフィス自身もそこで働く人たちも変化をし続けます。「時間の流れの中で、環境変化をとらえ自らも変化をしていく」というモザイクは、未知の将来を先取りする空間づくりを可能にするのです。

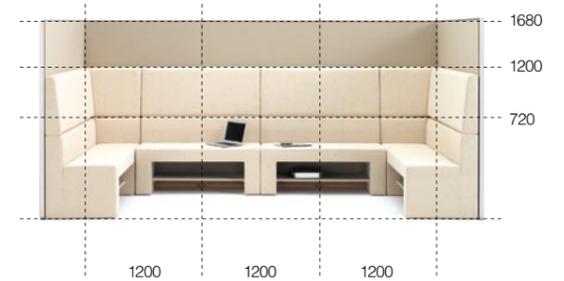
イトーキではこれからも、ワーカーのダイナミックな発想を引きだすクリエイティブなオフィスを追求していきます。

**「trans.」の4つのモードの考え方**

モザイクから生まれた次世代ワークステーションシステム

## CORE & CELL

コア&セルは、「trans.」の4つの思考モードを、効果的にオフィス環境へ組込むためのワークステーションシステムです。統一されたモデュールで多彩なパーツをラインナップし、さまざまなオフィス空間が美しく実現できるようになっています。たとえば、「ディスカッションの場」と「集中思考のためのワークスペース」を隣接させて、瞬時に思考モードの切り替えや情報の取りまとめ作業ができるようにしたり、リラックスした対話から、新しい刺激や創造が生まれるブレーンストーミングの場をつくったりと多彩なオフィスプランを支援します。そして、モザイクのコンセプトから生まれたコア&セルには、「空間」の中に時間を編みこみます。将来におけるビジネスの深化、組織変更や人員の増減といった変化への対応が最小限の変更で可能になっています。

さらにコア&セルには、エコロジーの発想も息づいています。変化を前提としているからこそ、長く使用していただくことができるからです。

● 統一されたモデュール構成が、さまざまなオフィス環境を実現する

### 空間提案例

偶発的コミュニケーションを狙ったキャビネット配置

自然に区画をする、暖簾の発想

整然としながらも、変化に富んだ空間を提案する

# 人が活き活きと働けるチェア

ワーカーと最も密接にコンタクトするオフィス家具、チェア。
チェアを進化させ、誰もがより快適に働けるようにすることで、
オフィスの創造力を強化します。

**自動ロッキング**
独自の体重感応メカでロッキング自動調整します。調整をすることなく、座るだけで適切なロッキングが得られます。

**身体になじむベンディングシート**
座部には、最適な箇所が着座荷重に応じて自在にたわむように多数のスリットが設けられています。またウレタンの使用量を抑えながら、座り心地をよくするための工夫も施されています。

背表・背裏・座の三つのパーツを組み合わせて使うことができます。

## 上質感とエコロジーを融合する

イトーキでは常に、これまでにはない概念を実現するオフィスチェアづくりに挑戦しています。2011年2月に発表した「コセール」もそのひとつです。背裏が張りぐるみのコセールは、テーラーメードという発想から生まれたもので、「仕立てのよさ」と、「着回しが効く」という思いを込めています。

仕立てのよさとは、布地のシワやステッチといった細部にこだわってつくられた張りぐるみチェアならではの上質感。そして、着回しが効くというのは、背表・背裏・座の三つのパーツで構成されており、工具を使わずに誰でも簡単に張地を交換できるということです。各パーツは、空間の目的やフロアに合わせて、あるいは部門やチームに合わせて、多彩なコーディネイトができるようになっています。従来のチェアは、長くお使いいただきリフレッシュしたい場合、背や座を丸ごと交換するのが一般的でした。その常識を打ち破り、クロスのみを交換するというのが「コセール」です。単に古いものを捨てて新しいものに取り替えるのではなく、廃棄物をなるべく抑えて、新しいオフィス空間を手に入れることができます。上質なものを、長い期間にわたって使っていただくという「コセール」の提案は、まさにエコロジーの基本に通じるものと考えます。

**ストライプレイヤーファブリック**
表裏で異なる顔のストライプを持つ独自開発のオリジナルメッシュ素材が、チェアの表と裏で異なる印象をつくり、空間にアクセントを与えます。

## デザインと機能を融合する

イトーキは、「オフィスを構成するエレメントとしてのチェア」のあり方を追求しています。そのひとつが、2010年12月に発表した「ヴェント」です。ヴェントチェアは、重厚な空間から、アクティブな雰囲気の空間まで、さまざまなオフィスに溶け込みます。オフィスにおけるチェアの存在は、皆様が考えている以上に大きなものです。

たとえば、軽やかな空間とするために、壁も天井も、デスクも白でまとめたオフィスがあるとしましょう。そこに、黒い椅子があると、それだけで重たさを感じる空間となります。チェアで最も視覚に訴えるのは、後姿(背の裏側)です。ヴェントは、新開発のファブリック素材によって、背の表側は汚れにくいブラックで、裏側は明るい空間に馴染むグレーで仕上げられています。もちろん、ヴェントの特徴は、空間に与える印象だけではありません。シャープでシンプルなデザインの内側に込められた快適な座り心地のためのテクノロジーにもヴェントの真価があります。ヴェントには、姿勢変化へ自動的に対応するオートマチックランバーテンションをはじめ、イトーキがチェアづくりに取組む中でつくり出してきた「座る人のための機能」がふんだんに盛り込まれています。

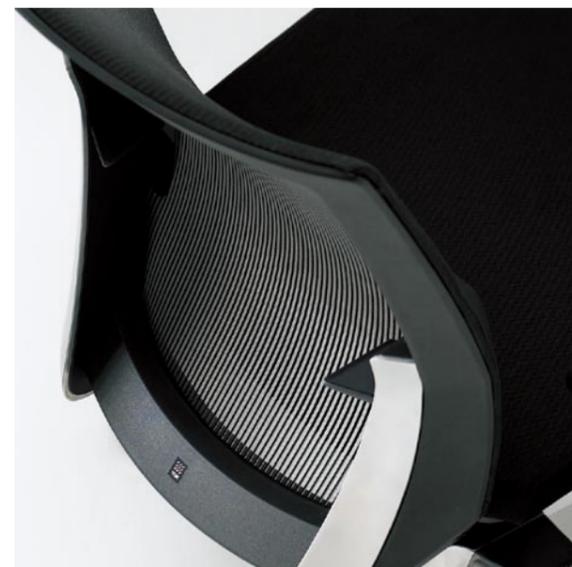
**オートマチックランバーテンション**
作業時と休憩姿勢をチェアが自動的に調整し、背骨が直立時はS字カーブ、後傾時はI字カーブを保持します。

**担当者の声**

**「チェアが人に合わせる」という設計思想**

オフィス商品企画室 **櫻井 多弥男**

きちんと操作や調整をすれば、非常にいい座り心地を実現できるチェアが、世の中にはたくさんあります。しかし現実には、きちんと機能を理解して、そのチェアのポテンシャルを最大限にひきだして使ってもらえるケースは、ごく稀です。ですから、座る人に対してチェアが作業を要求するのではなく、「チェアの側が座る人を受け止めて、座り心地を調整してあげる」という発想が重要になってきます。こうした「座る人を主役」にした設計思想を追求していきたいと思っています。

特集2

# これからのオフィスを提案する エコワークプレイス®、エコワークスタイル®へ。

企業には今、エネルギーを効率的に利用した事業運営が強く求められています。京都議定書、そしてポスト京都議定書といった枠組みが活発に議論され、温室効果ガス規制強化のための外部環境は着実に形成されています。また、地球温暖化対策推進法、省エネルギー法といった国の法的規制に加えて、東京都など自治体によっては独自の条例でより強力な規制を設ける流れにあります。

こうした激しい環境変化の中にあって、企業にとって自社の活動のどの部分について何を実行すべきかを見定めるのは困難になってきています。お客様の課題解決に向けてイトーキでは、長年にわたって製品・ソリューションの対象としてきたワークプレイスとワークスタイルを環境負荷という観点から探求。オフィスや事業所から発生する環境負荷の起因をとらえて、企業がとるべきカーボンコントロール施策を10個のフレームで整理し、環境負荷の低減に向けた計画を多面的に検討、提案するための基盤を構築しました。さらにイトーキでは、この10フレームソリューションから、環境保全に貢献するだけでなく、より知的生産性の高い「働く場」と「働き方」を実現する「EcoWorkplace（エコワークプレイス）」と「EcoWorkstyle（エコワークスタイル）」というコンセプトを発信していこうとしています。

**10フレームソリューション**

**ソリューション例**

・エネルギー使用量の見える化ソリューション
・高効率照明
・地域材活用ソリューション
・リモートカンファレンス

3R

・ゼロエミッションソリューション
・エコマーク・グリーン購入マーク製品
・ファイリングソリューション

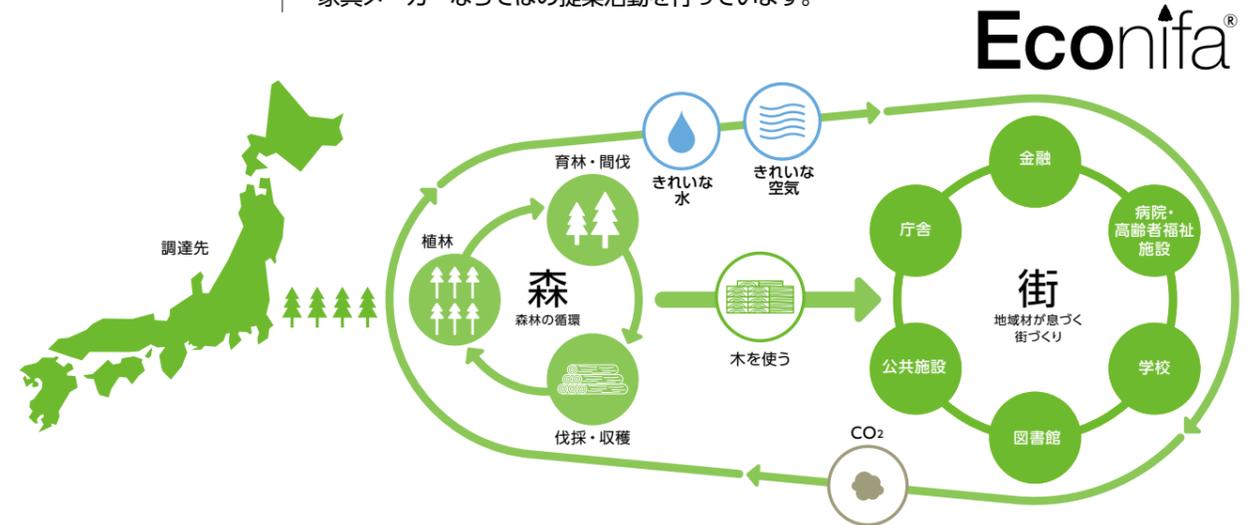
VOC

・有害化学物質配慮製品
・オフィス内緑化
・室内空気質改善ソリューション
・オーガニックインテリア™

$CO_2$削減に向けた製品・ソリューション

## 森と人、街を生き生きさせる地域材の活用

二酸化炭素を吸収し、固定化することにより、地球温暖化防止につながる森林。日本の森林の保全と木を活用した快適な空間提案を結びつけた、家具メーカーならではの提案活動を行っています。

Econifa®

私たちは森林からたくさんの恵みを受けています。森林に降った雨が土の中へ浸透し、ゆっくりと時間をかけて浄化され、おいしい水になります。また森林に張った根は自然災害を防ぎます。さらに森林は光合成により温室効果ガスである$CO_2$を吸収します。

日本が持っている貴重な宝物ともいえる森林は、現在荒廃の危機にさらされています。第二次世界大戦後、日本では復興のために木材需要が急増し、政府は急速に植林を行う拡大造林政策をとりました。ところが、木が育つためには40年程度の年数がかかるため、一度に大量の入手ができる外材が使われるようになってしまいました。現在、拡大造林の時に植林された針葉樹（杉、ヒノキ）は成長し、収穫期を迎えています。しかし、需要がないために放置されてしまっているのです。そうした地域材、国産材を、家具や内装材として活用するのがイトーキの推進する「Econifa（エコニファ）」です。Econifaは、森林から収穫した木を、街でのさまざまな空間づくりにいかすことにより、森林の循環（植林→育林・間伐→伐採・収穫）を生み出し、街の暮らしにぬくもりを与えます。日本の豊かな木の文化を現代にふさわしい形でよみがえらせることで、森と街をともに生き生きとさせることがEconifaの基本理念です。

地域材、国産材活用の推進は現在、国、地方自治体でも積極的に行われています。「地元の森林で収穫した地域材を地元の施設に使う」という基本モデルはもちろん、全国各地の森林が都市部のさまざまな空間で活用されるという新たなモデルも生まれています。地方と都市が互いに協力しあいながら、「森林の再生」と「地球温暖化対策」に取組んでいこうという動きに対して、イトーキは家具メーカーとして蓄積してきたノウハウ・技術（木の圧縮、不燃化、防腐など）を基に、Econifaのソリューション名でさまざまな提案を行っています。イトーキは、Econifaを通じて、木材を使用するメリット、森林の$CO_2$削減効果を広く発信していきたいと考えています。

### 地域材を使った空間づくり

### 木材使用のメリット

**木は人にやさしい**
○適度な湿度
○断熱性や衝撃に対する安全性
○目にやさしい
○健康に良い
○リラックス効果
○地産地消（地域の活性化）

**木は環境にやさしい**
○再利用・再生産可能資源
○地球温暖化防止に貢献（$CO_2$削減）

■ Econifaのノベルティ

森林保全の大切さを感じてもらうため、中央区の森（P25参照）の間伐材でミニプランターをつくり、2011年の商品展示会で配布。

CO₂削減に向けた
製品・ソリューション

# オフィスの新しい照明設計

オフィスワークに欠かすことのできない照明。
より省エネルギーに、しかも快適に働くことができるように、
イトーキは、人を中心にした新たな照明設計に取組んでいます。

タスク&アンビエント照明を採用した空間

オフィスのエネルギー消費の約4割を占めるといわれる照明。日本のオフィス照明は、天井全般照明方式によって空間全体を均一的な明るさで保つように設計されていました。しかし、それでは、机のないところも煌々と明るく照らされることになります。こうした無駄なエネルギー消費をなくすために注目されているのが、タスク&アンビエント照明とも言われる多灯分散照明方式です。働く人の近くに設置され個人の業務に必要な明るさを提供するタスクライトと、天井や壁などに設置され空間全体を照らすアンビエントライトを組み合わせ、さらに長寿命で省電力なLED光源を利用し、エネルギー消費を効率的に抑えます。

従来もタスク&アンビエント照明は、さまざまな空間で使われるケースがありました。しかし、天井全般式照明方式と比較して「暗い」という感じ方をされてきました。イトーキでは、タスク&アンビエント照明の課題に「人の光の感じ方」を考慮した照明設計で取組んでいます。自社のワーキングショールームで、タスク&アンビエント照明の効果をシミュレーションしており、約60%の照明省エネ率を確認しています。

また、タスク&アンビエント照明の採用は、省エネだけでなく、空間デザインという面でもメリットがあります。均一な明るさではなく、陰影をもたせることができるため、さまざまな表情の空間をつくることができるのです。

イトーキは今後も、高効率照明を通じて、人を主役としたオフィスづくり、地球にやさしいオフィスづくりを進めていきます。

## Topic

### イトーキの2011年夏期節電計画について

東日本大震災により、東京電力および東北電力管内において夏の電力需給の逼迫が懸念されています。イトーキでは、事業活動全体で継続して実施している温暖化防止のための$CO_2$削減施策に加え、この夏の節電アクションのための社内プロジェクトを立ちあげ自主行動計画を策定し、夏期の節電にも取組みます。また、オフィス空間を中心に節電ソリューションやエコワークスタイルの提案にも注力しています。

**計画中の主な取組み**

- ☐ 照明：照明エネルギーを常に30%〜40%カットする
- ☐ 空調：設定温度を28℃にする
- ☐ コンセント：パソコン自動節電プログラムを導入する

※2011年5月末時点

CO₂削減に向けた
製品・ソリューション

# 環境に貢献するものづくり

低炭素社会に向けて、
製品に関わる環境負荷の適切な情報提供が求められています。
イトーキは、温室効果ガス排出量の「見える化」に積極的に取組んでいきます。

## タスクチェア初のカーボン・オフセット

イトーキのスピーナは、タスクチェアで初めてカーボン・オフセット認証ラベルを取得。2010年環境省カーボン・オフセットモデル事業に認定されています。

スピーナ1脚のライフサイクル全体(原材料調達—生産—物流—廃棄)にわたる温室効果ガスの排出量は、75.1〜153.5kg$CO_2$e。これを2011年1月の出荷分より、購入いただいたお客様が温室効果ガス排出抑制に貢献したものとしてオフセットしています。

スピーナチェアのオフセットの方法は、インドのタミルナードゥ州で行なわれている風力発電です。化石燃料によらないエネルギー供給で地域の電力需要をみたすばかりでなく、雇用創出など地域の持続的発展に貢献します。

チェアを通じて、お客様の環境活動、新興国の発展に貢献できる活動として、イトーキは、カーボン・オフセットに長期的な視点で取組んでいきます。

■ スピーナチェア

■ カーボン・オフセット認証ラベル

認証取得者
株式会社イトーキ
認証番号
4CJ-1000046
www.4cj.org

■ カーボン・オフセット

日常生活や経済活動で避けることができない温室効果ガスの排出量を算定し、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資することで、自分の排出量を埋め合わせる（オフセット）という考え方です。

※日本国内において。2010年12月現在、イトーキ調べ。詳しくはスピーナスペシャルサイト（www.itoki.jp/spina/）をご覧下さい。

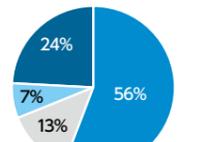
## 製品に環境という価値を表示する

イトーキは、経済産業省を中心に実施されているカーボンフットプリント（CFP）試行事業に参画。2011年2月に事務用デスクとチェアでは、業界では初めてCFP算定結果の第三者認証を取得しました。CFPとは、製品にライフサイクル全体(原材料調達—生産—流通—廃棄・リサイクル）にわたる温室効果ガスの排出量を合算し、表示する制度です。製品の環境負荷を見える化することにより、各プロセスの改善に役立て、継続的な温室効果ガスの削減につなげることができます。またお客様に「環境負荷の低さ」という製品の新たな選択基準をご提供できます。CFPの国際標準化が見込まれる中、イトーキでは、デスク、チェアの主力製品から取組みを開始し、CFP製品を積極的に拡大していきます。

■ CZデスク

- CZN-127HA-W7W7
  平机タイプ　W1200mm×D700mm
  カラー：ホワイトグレー
  算定結果：96kg
- CZN-127HA-W9W9
  平机タイプ　W1200mm×D700mm
  カラー：ホワイト
  算定結果：99kg

※上記の写真およびデータは、CZN-127HA-W7W7のものです。

■ エピオスチェア

- KE-477GB-T1□□□□
  ※□□□□：
  張地カラー（7種）
  メッシュハイバック／アジャスタブル肘／フリーロッキングタイプ
  算定結果：99kg

**［カーボンフットプリントの表示について］**

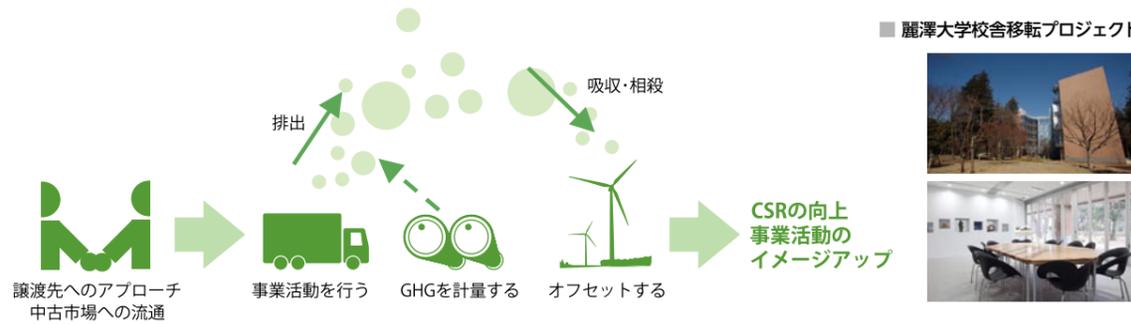
※各製品は、経済産業省と関係省庁による「カーボンフットプリント制度試行事業」において算定結果の検証を受け、表示が認められました。
認定PCRの名称：オフィス家具
認定PCR番号：PA-AK-02
共通原単位データベース名称：カーボンフットプリント制度試行事業$CO_2$換算量共通原単位データベース（暫定版）ver.2.01
※算定結果は2011年1月時点の試行段階のものです。
※カーボンフットプリント制度試行事業については、下記ホームページをご覧下さい。
http://www.cfp-japan.jp/

3R活動を支援する製品・ソリューション

# 環境にやさしい施設移転

企業が活動するところに、環境負荷は必ず発生してしまいます。
イトーキは、オフィスや学校といった空間づくりを担う企業として、
お客様の新築や移転による環境負荷を最小限に抑えるサポートを行います。

企業や学校などの移転には、膨大な環境負荷を伴います。イトーキは、3R（リデュース、リユース、リサイクル）をキーワードに、環境配慮型の移転プロジェクトを提供しています。2010年は、新校舎竣工に伴う麗澤大学様の校舎移転をサポートしました。これまでの大学移転は、大量の什器や備品の廃棄が行われていました。イトーキでは自社のネットワークを駆使し、什器や備品の再利用や廃棄物のリサイクルを提案しました。さらに、オフィス製品へのカーボンフットプリント認証取得での経験を生かして、トラック輸送や廃棄によるGHG（温室効果ガス）排出量の複雑な計算を実施。算出した結果をお客様名義でオフセットすることにより、環境負荷の低い施設移転を実現しました。

■ 麗澤大学校舎移転プロジェクト

VOCを削減するための研究活動

# 空気質のユニバーサルデザイン

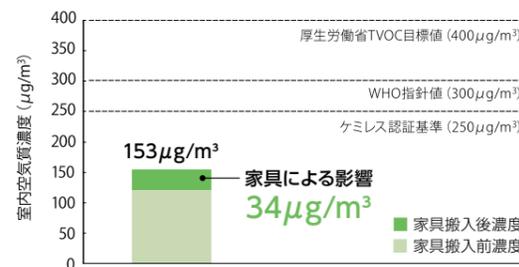
家具や床、天井などからのVOC（揮発性有機化合物）による
健康障害、シックハウス症候群を解決し、誰もが健康に過ごすことのできる
空間をつくるためのノウハウの蓄積に取組んでいます。

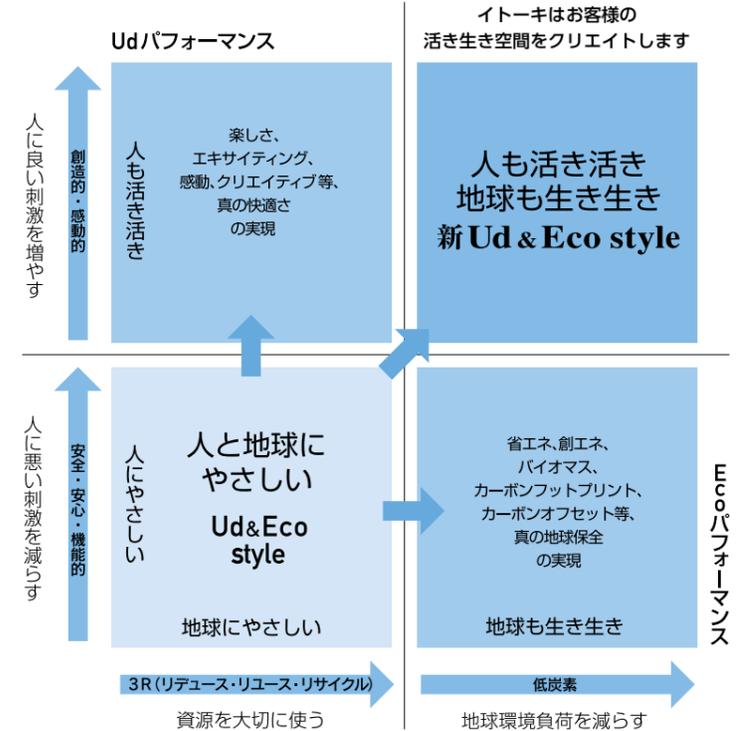
イトーキは、2006年から、千葉大学環境健康フィールド科学センター（千葉県柏市）内で進められているケミレスタウン・プロジェクトに唯一の家具メーカーとして参加しています。「ケミレス」とは、「ケミカル（化学）」と「レス（少ない）」からできた言葉です。このプロジェクトは、化学物質の少ない健康な空間づくりのために、医学の専門家とさまざまな企業が協力して、シックハウスの原因物質の研究や人体に対する影響の解明に取組んでいます。そして、多くの実証実験や計測を重ねてきた結果、健康な空間を実現するための基準をトータルVOC（TVOC）で示すことができる段階にまで到達。きびしい基準値（250μg/㎥）をクリアする空間をケミレス認証空間と名づけて、その具体的なモデルの提案や、認証制度づくりを進めています。2011年の秋には、正式な認証制度も発表予定になっており、誰もが健康に過ごすことのできる空間の普及を後押ししていくことが期待されています。

イトーキでは、ケミレス認証空間のモデルをオフィス、ドミトリー（寮）、学校を想定したパッケージとして発表しています。

※「ケミレス」「ケミレスタウン」は、NPO次世代環境健康学センターの登録商標です。

■ ケミレス認証空間オフィスパッケージ

■ ケミレス認証空間のTVOC濃度

進化をつづけるコーポレイトメッセージ

# 新Ud&Eco style

### ● 人が主役の環境づくりを目指して

イトーキは、「人が主役の環境づくり」を実践する中で、家具や空間設計に人間工学を取り入れ、安全性、快適性を追求。早くからユニバーサルデザインに取組んできました。そして1990年代の後半に入り、社会全体でエコロジーへの意識が高まる中で、1999年にコーポレイトメッセージとして「Ud&Eco style（ユーデコスタイル）」を宣言。Ud（ユニバーサルデザイン）とEco（エコデザイン）の融合で持続可能な共創社会の実現に貢献することを打ち出しました。

2005年には、「Ud&Eco style」の思想をベースにしたプロダクトガイドラインを策定。以来、Ud&Ecoプロダクトが次々と生まれ、2007年スピーナチェア、2008年LANシートがグッドデザイン賞金賞（経済産業大臣賞）を受賞するなど、高い評価をいただくことができました。

### ●よりアクティブでポジティブな提案へ

2010年、「Ud&Eco style」の宣言から10年が経過し、ユニバーサルデザイン、エコデザインの思想は、一般的なものになりました。そうした中でイトーキは、「Ud&Eco style」をより進化させた「新Ud&Eco style」を宣言しました。「人と地球にやさしい」から、「人も活き活き、地球も生き生き」へ。「新Ud&Eco style」は、Ud&Eco styleの問題解決型のアプローチに、よりアクティブでポジティブな考え方をプラスしたものになっています。Udは、人に悪い刺激を減らす活動に、「楽しさ、感動といった真の快適性を追求する活動」をプラス。Ecoは、3Rに代表される資源を大切にする活動に、「$CO_2$削減に貢献する省エネルギー、創エネルギーなどの活動」をプラスしています。

### ●UdとEcoが高次元で結実した製品へ

イトーキは現在、UdとEcoの価値が高次元で結実したUd&Ecoプロダクトを市場に発信していこうとしています。そのために、UdとEcoの観点から、開発するプロダクトレベルを独自に定義し、製品企画の基盤としています。しかしイトーキの目的は、「新Ud&Eco style」を単に自社製品で具現化することではありません。空間としてトータルに実現し、「人と地球が活き生きとする社会を目指そうという考え方」として社会全体に広めていきたいと考えているのです。

■ プロダクトレベル

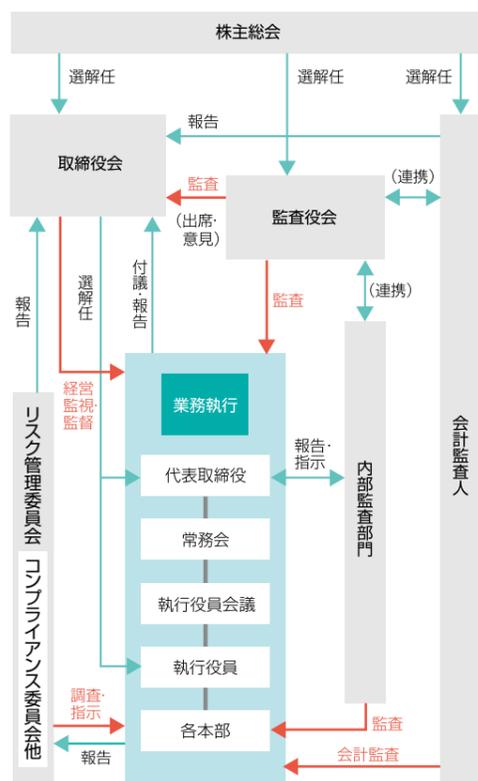
# コーポレート・ガバナンス

## 健全で透明な企業経営に努めています。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/index.html

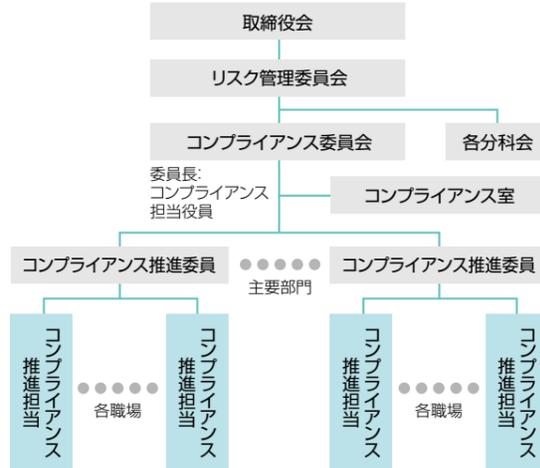
### ●コーポレート・ガバナンスに取組んでいます

イトーキは、監査役制度を採用し、取締役会において経営の重要な意思決定、業務執行の監督を行っています。さらに2005年より、「執行役員制度」を導入し、業務執行の機能強化および経営効率の向上を図っています。監査役は、監査役会を構成し、取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、取締役の業務執行状況を監査しています。また会計監査人は適法な会計処理、投資家への適正な情報開示の観点から会計監査を行っています。社内においては、執行部門から独立した内部監査部門を設置し、グループ全体の内部監査の充実を図っています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図

取締役会は社外取締役2名を含む全8名の取締役で構成され、監査役会は社外監査役2名を含む全3名の監査役で構成されています。（2011年4月現在）

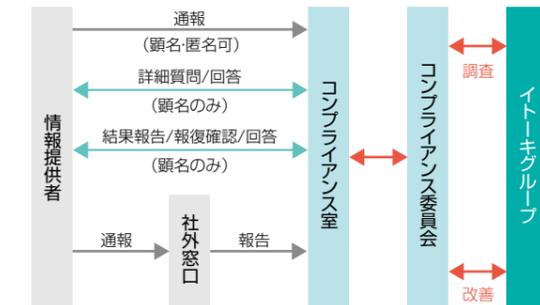
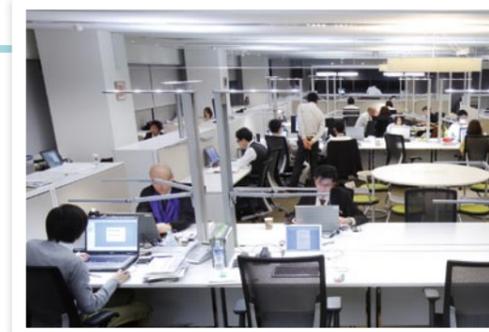
### ●内部統制システムを構築しています

イトーキでは、会社法の施行に伴い、内部統制システムの全社横断的・網羅的・一元的な構築に向けて、2006年5月、取締役会において基本方針を定め、この基本方針に則った体制の整備に努めています。2008年3月、同年12月および2011年3月には、社内体制の変更などによる基本方針の一部改定を行っています。また、金融商取引法に基づく財務報告にかかわる内部統制報告制度（J-SOX法）への対応については、2009年1月より「内部統制監査室」と「内部統制推進室」を設置し、財務報告の信頼性・適正性を確保するために必要となる体制の構築、運用に努めています。

■ コンプライアンス推進体制図

■ 内部通報制度図（ヘルプライン対応フロー）

# リスクマネジメント/コンプライアンス

## 信頼できる企業としての基盤づくりに取組んでいます。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/risk.html

### ●リスクマネジメント体制の強化を進めています

2009年度に新設したリスク管理部を中心に「イトーキグループリスク管理基本規程」のもと、リスクマネジメントの体制づくりを進めています。リスクの未然回避策として、独自の手法でイトーキの抱えるリスクを洗い出し、優先順位を設定。2009年12月には重要度の高い64項目を、2010年4月には重要度の高い52項目を一覧として明文化し、リスクに対する共通認識の徹底とリスクの未然回避に活用しています。

■ 事業継続に関わるリスク52項目

イトーキのリスク一覧表

### ●買収防衛策を更新しています

2008年に当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる取組みのひとつとして、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」を導入しました。2011年には、プランの一部変更を行い更新しています。

### ●独占禁止法遵守を徹底しています

2010年3月の独占禁止法違反による排除措置命令を受け、再発防止のためのコンプライアンス体制の強化に力を入れています。全社員を対象に独占禁止法遵守の、eラーニングによる教育を行っています。また、中央官庁担当部門を対象に独占禁止法遵守研修会および実行状況の監査を実施しています。

### ●コンプライアンスの意識向上を図ります

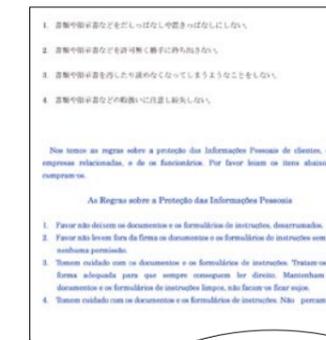
2005年に制定した「イトーキグループ行動規範」の改訂を重ねながら、コンプライアンス意識の徹底を図ってきました。2010年度は、前年に引き続きコンプライアンス意識調査を実施するとともに、コンプライアンスの観点から注意すべき内容を盛り込んだコンプラ・ニュースの発信回数を増やし、一人ひとりの意識の向上を図っています。

### ●コンプライアンス体制を整えています

全社のコンプライアンス体制の中心としてコンプライアンス室を事務局とし、担当役員を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置。さらに、主要部門にコンプライアンス推進委員、全部門にコンプライアンス推進担当を配置しています。コンプライアンス委員会は、グループ経営すべてに対する調査、報告・指示の役割を担っており、2010年度は3回開催されています。

### ●情報セキュリティ対策を推進中です

ISMS認証の取得、全社でのプライバシーマーク（Pマーク）取得を皮切りに、情報セキュリティ体制のレベルアップを着実に進めています。2009年には、Eメールの添付書類にパスワードの自動生成システムを導入。2010年も、記憶メディアの取扱へのさらなる注意喚起、許可者以外の施設内立ち入りに対する識別の強化（社員証、名札、ゲストカードなどの携帯の徹底）など、一層の強化に取組みました。

■ 個人情報保護を徹底しています

全社で約170名在籍する外国人従業員に向けても、個人情報保護を徹底するため、ポルトガル語、中国語、ハングル語版を作成し、工場等への掲示を行っています。

## お客様とのコミュニケーション

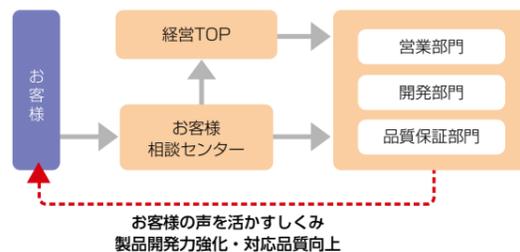
# お客様とのより良い信頼関係を目指します。

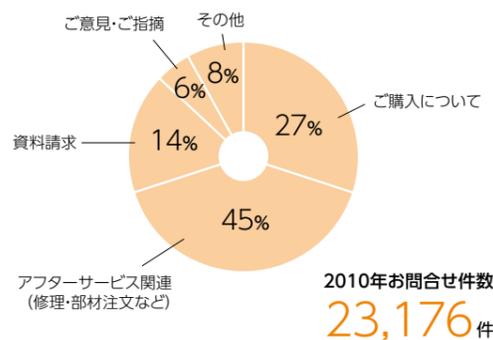
東京ショールームの展示風景

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/customer.html

### ●お客様相談センターを開設しています

お客様相談センターは、お客様からイトーキへの窓口として1991年に開設しました。お客様との真のコミュニケーションを目指し、誠実に対応することを心掛けています。お客様からいただいたご指摘は、企業にとって重要な情報ととらえ、社内関連部門へ伝達することで、お客様によりご満足いただけるよう改善に努めます。これからもお客様のご要望に合った正確な情報を迅速にご提供することで、CS（Customer Satisfaction お客様満足）の実現を目指します。

■ お客様相談センター受信業務の流れ

■ お客様相談センターに寄せられたお問い合わせ

2010年お問合せ件数
23,176件

■ お客様の声を活かして

オフィスチェア【トリノチェア】について、「背もたれを持つ際、裏側の隙間に指が入り挟む危険がある。」というご指摘をいただきました。お客様相談センターより社内関連部門へ伝達し、事故を未然に防ぐため、取扱説明書に注意喚起を追記しました。

お客様相談センター　0120-164177
ホームページからのお問い合わせ http://www.itoki.jp/cs/

### ●厳しい品質基準を設けています

新製品の開発においては、企画、設計、量産試作の各段階で厳しい審査に合格した製品だけが新製品として発売されます。製品はJIS規格、業界規格等への適合とともに、よりレベルの高い「社内基準」で最終的にチェックされ、量産に移行されます。

■ 振動試験
社内に製品の耐震性能を実験する「3次元振動試験機」を保有し、各製品の耐震性能の把握など、地震に対する安全確保の技術蓄積を図っています。

### ●教育研修を通じて品質を追求します

設計開発、製品安全、製造、品質管理などに関係する専門的な技能、知識を習得し、レベルアップを図るための専門的な技能教育を定期的に開催しています。

■ 技能研修
溶接技能レベルアップ研修の様子

### ●ショールームを全国に展開しています

全国6カ所（東京・大阪・横浜・名古屋・広島・福岡）にあるショールームでは、お客様にイトーキの提案する新しいワークスタイルをご覧いただけます。東京ショールームや大阪ショールームについては、社員が実際に働いているところを体感できるワーキングショールームとなっています。また、歴代のヒット商品やオフィス文化の歩みを伝える史料館もあります。

## 販売代理店とのパートナーシップ

# さまざまな施策を通じて、つながりを深めています。

代理店様専用Webサイト

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/agent.html

### ●皆様との交流を大切にしています

年に一度、基準以上の販売をされた代理店社長の皆様を招待する「全国代理店社長会議」を開催しています。この会議は、3部構成をとっています。第1部では、代理店経営者の皆様に経営方針や目指す方向をご理解いただくための、経営トップによる方針説明。第2部においては、年間売上高ランキング上位10社様と、顕著な事例を残された代理店様を表彰する優秀代理店表彰。そして第3部では、著名な講師による記念講演を行っています。会議終了後には、懇親会も実施し「代理店様同士の交流の場」として活用していただいています。

■ 年間売上高ランキング上位10社の社長の皆様とイトーキ役員との記念撮影

■ 最優秀賞受賞店 株式会社コイヌマ様の納入事例

エコニファ初の事例

### ●社員教育支援を行っています

代理店社員の皆様の販売力強化を目的とし、各種研修会を実施しています。各職種別に行われる「IDFカレッジ」では、受講者からのアンケートをもとにカリキュラムを構成しています。2011年度は、要望の多かった市場別研修を実施し、定員予定数を超えるお申込、ご参加いただきました。また、次期経営者、経営陣を対象とした「イトーキ経営塾」を実施しています。この塾は半年間にわたって開催され、さらに期間終了後も、年1回のOB会研修を行うなど、長期的な視野にたったプログラムとなっています。

■ 営業初級・中級研修：課題プレゼンテーションの様子

■ 営業支援研修：電話対応における悩みを共有している様子

### ●相互の情報共有を図っています

イトーキは直接販売だけでなく、全国代理店の皆様を通じて製品を販売しています。代理店の皆様とのパートナーシップを強化するために、代理店様専用のWebサイト「I-WOS」を開設しています。「I-WOS」は、イトーキ製品の仕入価・在庫等の検索ができる業務支援機能のほか、製品の販促情報やイトーキの広告開示情報等の提供も行っています。さらに、代理店様紹介というコーナーを設け、代理店様間の情報共有の場としてもご利用いただいています。全国の代理店様約2,900名（2011年3月現在）に活用いただいています。

■ 掲載された代理店様ご紹介記事

# 従業員とのコミュニケーション

## 従業員が活き活きできる環境づくりに取組んでいます。

女性社員を主役にした社内交流イベント「i-mama & woman 2010」

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/employee.html

### ●人材育成に努めています

新入社員研修や管理職研修など階層別教育のほか、各部門に必要な専門教育として部門別教育を行い、さらに各種資格の取得支援も実施しています。

### ●働きがいのある評価制度を目指します

イトーキの評価制度は、目標の達成度で評価する「業績評価」と職務遂行能力と執務態度で評価する「職能・執務評価」から構成されています。目標設定・評価は本人の申告や上長との面談をふまえて決定され、給与・賞与・昇格に反映されます。社員一人ひとりの目標達成の積み重ねが会社の業績に結びつくという考え方のもと、賞与の総枠は会社業績に連動するしくみを採用しています。

### ●「イトーキアカデミー プラス」を開いています

「イトーキアカデミー プラス」は、営業力強化プログラムであるイトーキアカデミーシリーズのひとつで、自主参加型の研修です。2010年度は、首都圏の若手を中心に集まり、オフィスの基礎的な知識の習得や、営業スキルの向上を目的として、5月から11月にかけて計12回開催しました。ロールプレイやワークショップを取り入れ、より実践的なカリキュラムにより、営業スキルのブラッシュアップを行っています。

### ●ワークライフバランスを推進します

育児休業・短時間勤務期間の延長など育児・介護支援制度を拡充し、仕事と家庭の両立を支援する働きやすい体制・職場環境づくりを推進しています。また、従業員のモチベーションを高めるために、職務上の成果や改善、提案活動に対する各種報奨制度も導入しています。

■ 福岡県の提唱する「子育て応援宣言登録制度」に参加

イトーキ西日本支社では、2009年1月に子育て応援宣言をし、引き続き登録制度に参加しています。会社全体としては、配偶者出産時の特別有給休暇や育児中の短時間勤務制度など、法律以上の制度を導入し、従業員の子育てと仕事の両立を応援しています。

■ 従業員関連データ

| | 女性 | 男性 | 総数 |
|---|---|---|---|
| 正社員総数 | 384人 | 1,388人 | 1,772人 |
| 正社員以外の雇用人数（直接雇用する契約社員） | 40人 | 314人 | 354人 |
| 従業員平均年齢 | 35歳7カ月 | 43歳7カ月 | 41歳7カ月 |
| 従業員平均勤続年数 | 10年8カ月 | 16年8カ月 | 15年8カ月 |
| 障がい者雇用人数 | 4人 | 26人 | 30人 |
| 障がい者雇用率 | | | 1.72% |
| 再雇用人数 | 0人 | 79人 | 79人 |
| 産休取得者数 | 12人 | 0人 | 12人 |
| 育休取得者数 | 14人 | 0人 | 14人 |
| 短時間勤務者数 | 26人 | 0人 | 26人 |
| シフト勤務者数 | 4人 | 2人 | 6人 |

2010年12月31日現在（※産休・育休取得者は重複あり）

正社員および正社員以外の雇用人数の集計は、当社が定める各種規程・制度の対象となる社員および契約社員を対象としています。産休・育休取得者数は、2010年度に休業を開始した人数です。

### ●多様な働き方に向けた人事制度を検討しています

イトーキでは、評価制度や昇降格基準、賃金・諸手当、人材育成、育児・介護、定年再雇用、裁量労働制など、多様な働き方を実現する人事制度を検討しています。

### ●障がい者雇用を進めています

イトーキは、障がい者の採用を進めています。2010年度の障がい者雇用率は1.72%でした。製造派遣の直接雇用により総従業員数が増えたことも雇用率低下の要因として挙げられます。しかし、経年で法定雇用率（1.8%）を満たしていないことを課題ととらえ、障がい者雇用率の向上に努めていきます。

### ●年代を超えて人材活用を図ります

定年を迎えられ、働く意欲の高い方を対象に、最長65歳まで再雇用する制度を導入しています。長年の業務で培われたノウハウや知識、技術を若い世代へ継承し、年代を超えて活き活きと働くことのできる環境づくりを目指しています。

### ●長時間労働の減少に取組みます

労働時間管理の適正化に向け、時間外労働や休日出勤の事前申請制度の徹底など、長時間労働・労働時間管理に対する社員全員の意識改革を推進しています。2010年度は、部門ごとに時間外の原因を究明し解決するため、「業務改善計画書」の作成を毎月実施しました。

■ KINTAI NAVI

適正な労務管理への理解のため、労働時間管理ルールを説明したハンドブックを作成しています。

### ●心身両面の健康をサポートします

社員の心身の健康については、社員が個人で意識をして自発的に取組むことが重要です。そこで、2007年度に、社員の健康増進をサポートするプロジェクト「IHM（イトーキヘルスマネジメント）」を立ちあげました。社員全員がIHMの基本理念を実現する「自律した社員」となれるような“活き活きと働ける環境づくり”を目指しています。

■ メンタルヘルス研修

2010年度より新入社員と新しく4等級に昇格した社員が必ず受講できるように、階層別研修に組み込みました。2010年は上記に加え、広島支店と名古屋支店で開催し、109名が出席しました。これにより2007年からの延べ参加人数は1,613名となります。

■ ポスターで健康診断受診を促進

健康診断受診促進の呼びかけのツールとして、オリジナルのポスターを各事業所に掲示しています。

■「健康診断塾」発行

健康診断を受診する意味や、40歳以上の方への人間ドック受診のすすめ、また検査結果の見方など、わかりやすくまとめた広報物を発行しました。

■ イトーキランチナビ

オフィス周辺のお店で、人気のランチメニューの栄養バランスやカロリーをまとめた「イトーキランチナビ」を発行しています。それぞれのメニューには、社団法人日本栄養士会様のご協力により、食事バランスガイドに加え、「栄養士アドバイス」をプラスしています。2008年度の東京版・大阪版に引き続き、2010年度は名古屋版・福岡版も発行しました。

### ●安全・安心な環境づくりを行います

人が主役の環境づくりを提唱するイトーキは、法令を遵守し従業員が安全で安心して働ける職場環境を構築するとともに、健康の維持と増進に努めています。安全は企業活動の基本条件であることを全員が認識し、労働災害の防止を図ることを目的に安全衛生活動を積極的に推進しています。労働災害ゼロを目標に、全社安全衛生委員会、事業場ごとの安全衛生活動、協力会社様との災害防止協議会、安全大会を基に活動しています。

■ 労働災害に関するデータ（2010年度）

関西工場、関東工場のデータ

| 休業災害件数 | 不休業災害件数 | 度数率 | 強度率 |
|---|---|---|---|
| 2 件 | 4 件 | 2.41 | 0.10 |

※度数率:100万延べ実労働時間あたりの労働災害による死傷者数
※強度率:1,000延べ実労働時間あたりの労働損失日数

■ 関西地区安全大会の様子（2010年9月16日開催）

■ インフルエンザ対策

2009年の新型インフルエンザ対策に始まり、罹患した場合の早期伝達と感染予防に向けた行動指針を再度徹底しました。健康保険組合の補助制度を利用し、社員へのインフルエンザ予防接種をすすめる一方、大きな事業所では、集団予防接種の機会を設け、感染予防対策に努めました。

### ●従業員の知恵を結集します

業務改善、体質強化につながるアイデアをイトーキ労働組合が中心となって集約し、会社側と議論する会議を設けています。

### ●経営層とのコミュニケーションを図ります

経営トップと職場リーダークラスとの意見交換会「イトーキの未来を語る会」や各地区での「部門長との意見交換会」を実施しています。

### ●グループ別の交流イベントを開きます

職種、世代、性別などに共通項を持つ社員同士のコミュニケーションの場を設けることで、活力あふれる職場づくりを図っています。

## 株主とのコミュニケーション

# 皆さまとのつながりを情報開示と対話を通して築いていきます。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/stockholders.html

### ●公正・迅速な情報開示に努めます

イトーキでは、経営や事業活動に関する情報を公正かつ迅速に開示することに努めています。そのポリシーは、各種法令および東京証券取引所の定める適時開示規則に基づいた情報開示はもとより、株主・投資家の皆様のニーズに対応した情報についても積極的に開示することに努めています。情報開示においては、その重要性や内容に応じて、説明会など最適な方法を選択して行うとともに、ホームページ上に記載しています。

http://www.itoki.jp/company/ir/

■ 対話を深める説明会、ミーティングを積極的に開催

機関投資家向け決算説明会（2010年2月25日）

### ●継続的かつ安定的な配当政策を推進しています

イトーキでは、株主の皆様への利益還元を経営の重点政策のひとつと認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開などを総合的・長期的に勘案した上で、継続的かつ安定的に配当することを利益配分の基本方針としています。

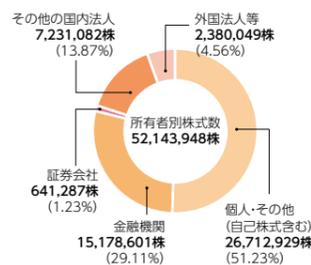
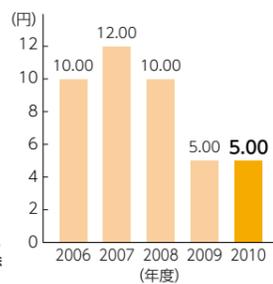
2010年度の配当金は、1株につき5円としました。

■ イトーキの株主構成
（2010年12月31日現在）

所有者別株式数 52,143,948株

| 区分 | 株式数 | 比率 |
| --- | --- | --- |
| 個人・その他（自己株式含む） | 26,712,929株 | （51.23%） |
| 金融機関 | 15,178,601株 | （29.11%） |
| 証券会社 | 641,287株 | （1.23%） |
| その他の国内法人 | 7,231,082株 | （13.87%） |
| 外国法人等 | 2,380,049株 | （4.56%） |

■ 1株当たり配当金の推移

| 年度 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 配当金（円） | 10.00 | 12.00 | 10.00 | 5.00 | 5.00 |

### ●株主・投資家の皆様との対話を重視しています

株主・投資家の皆様からいただいたご意見を、イトーキでは、経営に反映していくことを重視しています。株主の皆様に対する年1回の定時株主総会をはじめ、機関投資家・アナリストの皆様に対する年2回の決算説明会を開催しています。こうした説明会では、経営トップ自らが業績の説明だけでなく、事業戦略や経営の方向性に関する説明を行っています。また、このほか国内機関投資家訪問、海外投資家とのテレカンファレンスなど個別ミーティングや事業説明会、施設見学会を適時実施しています。

■ 株主総会映像にはCUD（カラーユニバーサルデザイン）を採用

第61回定時株主総会（2011年3月25日開催）

## 社会とのコミュニケーション

# さまざまな活動を通じて人と地球が「いきいき」とする社会に貢献します。

中央区の森活動の参加者たち

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/society.html

### ●エコキャップ運動で子供たちにワクチンを

ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにワクチンを送るボランティア運動を実施しています。2010年11月時点でのグループ企業の参加分も含め回収した累積回収数は、236,868個となり、ワクチン本数に換算すると、296人分の購入資金にあたります。

### ●「日本経団連自然保護基金」に参加しています

日本経団連自然保護協議会の「日本経団連自然保護基金」に賛同し、アジア太平洋地域を中心に開発途上地域での自然環境の保全プロジェクトや、日本の国内の優れた自然環境保全活動を助成しています。2010年は、50万円の寄付を行いました。

### ●地域の環境をもっときれいに豊かに

全国にある工場や物流センター内の緑化や、オフィス周辺地域の清掃など、地域の一員として美化活動を行っています。また、近隣の児童を招いての工場見学会やショールーム見学会を開催するなど、環境・社会活動を通じて地域交流を行っています。

■ 淀川クリーン作戦2010（2010年7月18日開催）

### ●中国の砂漠緑化に協力しています

イトーキは、砂漠緑化・砂漠化防止を目的とした「NPO緑化ネットワーク」の植林活動に賛同し、中国内蒙古自治区通遼市のホルチン砂漠の緑化に協力しています。

### ●地球温暖化を防止する森林保全作業を体験

東京本社のある東京都中央区では、地球温暖化防止対策の一環として、東京都西多摩郡檜原村にある「中央区の森」で、間伐、枝打ち、下草刈りなど森林保全作業の機会を提供しています。イトーキでも、2010年12月4日に従業員38名が「中央区の森」への間伐ツアーを行い、スギ、ヒノキの間伐作業と丸太の運び出しを行いました。

### ●ステナイBOOK活動に参加しています

「ステナイBOOK」は、NPO法人シャプラニール（市民による海外協力の会）とブックオフコーポレーション株式会社が実施する、不要な本やCDなどを、ストリートチルドレンや南アジアの人々の生活向上のための支援活動に役立てる活動です。イトーキでは2009年12月から、企業としてこの活動に参加しています。

■ ステナイBOOK 社内ポスター

### ●Ud、環境保全の普及に努めています

Ud（ユニバーサルデザイン）や環境の関連団体やNPOと連携し、最新の動向調査や研究などをしています。これらの研究成果は、企業活動に活かすとともに、研究発表や講演会などを行い、社会全体の普及に努めています。

■ ユニバーサルデザインと環境に関する主な参加団体（2010年12月現在）

- グリーン購入ネットワーク（GPN）
- エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会（SPEED研究会）
- 日本人間工学会
- 国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）
- 日本LCA学会
- ケミレス推進プロジェクト
- 環境経営学会
- プラチナ社会研究会 プラチナシティ・プロジェクト

# 環境方針と環境中期計画

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/plan.html

## 企業活動のすべての領域において地球環境への負荷を低減し、その保全に努めます。

### イトーキ環境方針

当社の企業理念に基づき、以下の環境方針を定めます。
株式会社イトーキ及びイトーキグループは、地球環境問題を21世紀の最重要課題であると認識し、持続可能な循環型社会を実現するため、企業活動の全ての領域で地球環境への負荷の低減を図ります。
そして、さらに人の多様性を考慮した"人が主役の環境づくり"を目指します。

**○行動指針**

1.地球環境と人に配慮した製品・サービス及び空間デザインを提供します。製品開発においては、自社基準によるアセスメントを実施し、製品の「Eco(エコ)・プロダクト」化を推進します。また、人と地球が「活き生き」と共創する社会の実現を目指す企業コンセプト「新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」の実践に努めます。

2.日常の業務に環境活動を取り込み、地球環境の保全と汚染の予防に努めます。
①省資源、省エネルギー及びリサイクルの促進
②有害物質の管理の徹底と使用量の最小化
③地球温暖化ガス($CO_2$)及び環境汚染物質の管理による放出量の最小化
④グリーン調達、グリーン購入の促進
⑤地球環境負荷の低減に資する技術の研究・開発

3.環境関連法規制等、その他当社が同意する規制・協定等を順守します。更に自ら環境基準を定め、これを順守します。

4.要員一人ひとりに環境方針を周知させるとともに、計画的な教育・訓練を通じて環境意識の向上を図り、業務に反映できるよう人材を育成します。

5.環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2009年4月1日
株式会社イトーキ 代表取締役社長　**松井　正**

### ●4カ年の環境中期計画（2009年〜2012年）を策定し、環境活動を展開しています。

イトーキ環境方針に基づき、2009年度スタートの4カ年の環境中期計画を策定しています。
これに従い、9つのテーマごとに環境目標を定め、目標の達成に向けた活動を行っています。

| | | |
|---|---|---|
| 1 Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進 | 2 有害化学物質管理・情報開示 | 3 汚染防止 |
| 4 地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発 | 5 地球温暖化の防止 | 6 廃棄物の削減とリサイクル促進 |
| 7 水資源の保全 | 8 環境マネジメントシステムの継続的改善 | 9 社会貢献 |

# 環境目標と2010年度の実績

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/purpose.html

### 環境中期計画 全社環境目的・目標と2010年度実績

評価基準
▲▲▲：目標達成率 100%以上
▲▲：目標達成率 80%以上
▲：目標達成率 80%未満

| 全社環境目的 | 環境目標 | 2010年度 目標値 | 2010年度 実績 | 評価 | 2011年度の目標値 ＊一部2012年までの目標値 | 詳細 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進 | Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進 | Ecoプロダクトの開発 エコマーク取得製品のうち選定11品目についての販売促進 | Ecoプロダクトの販売促進目標達成率94% | ▲▲ | Ecoプロダクトの開発、販売促進 | ➡ P15 |
| | Ud&Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進 | Ud&Ecoプロダクトの開発 Ud&Ecoプロダクトの販売促進 | Ud&Eco配慮製品（スピーナ）でタスクチェア初のカーボンオフセット認証を取得。2011年1月より販売開始 | ▲▲▲ | Ud&Ecoプロダクトの開発、販売促進 | |
| 2 有害化学物質管理・情報開示 | 製品含有VOCの把握・管理 | 化学物質管理ガイドラインの作成 | 化学物質管理ガイドラインの法的および各種要求事項との整合性確認を継続 | ▲ | 化学物質管理ガイドラインの運用徹底 | ➡ P32 |
| | 製品からのVOC放散量の把握 | 主要製品VOC放散量の測定と把握 | 主要製品VOC放散量の測定手順の検討 | | 製品からのVOC放散量の把握 | |
| 3 汚染防止 | 生産拠点の汚染防止 | 大気汚染、水質汚染、土壌汚染の防止　法・規制等の100%順守、管理の徹底 | 法、条例、自主規制値の継続的監視と順守 | ▲▲▲ | 大気汚染、水質汚染、土壌汚染の防止　法・規制等の100%順守、管理の徹底 | ➡ Web |
| 4 地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発 | 有害化学物質の削減技術の研究開発：ケミレス素材の開発 | 主要製品への展開と商品化 | ケミレス基準の整備 | ▲ | ケミレス認証制度の運用 | ➡ P16 |
| | 有害化学物質の削減技術の研究開発：化学物質除去技術の開発 | 化学物質除去技術の機能向上研究 | 化学物質除去技術の調査研究終了 | ▲ | （2010年度で目標化終了） | |
| 5 地球温暖化の防止 | $CO_2$排出量の削減：イトーキグループの$CO_2$排出量の削減 | （グループ）JOIFA自主行動計画および京都議定書をクリアする目標値の設定<br>（単体）セグメントごと原単位の寄与度の合計値で2007年度比6%削減 | （グループ）目標値設定完了<br>（単体）2007年度比3.0%削減 | ▲ | （グループ）製造系2007年度比毎年2%削減、非製造系前年比1%削減（2012年度まで）<br>（単体）セグメントごと原単位の寄与度の合計値で2007年度比8%削減 | ➡ P28〜29 |
| | お客様先での$CO_2$削減を含む環境負荷の低減 | 環境配慮型オフィスの提案活動の推進 | 省エネによるオフィスコスト削減と環境負荷低減提案の実施 | ▲▲▲ | 環境負荷低減に関する提案の実施 | ➡ P12〜16 |
| | カーボンフットプリント制度への対応：製品$CO_2$情報の把握、公開 | カーボンフットプリントの算出全社展開 | 主力製品のデスク、チェア2機種9タイプでカーボンフットプリント認証取得 | ▲▲▲ | 次期認証製品への対応準備 | |
| | EOM（エコオフィス・マネジメント）の開発：環境配慮型ワークの支援 | 環境配慮型ワークプレイスの提案 | エコワークプレイスの提案実施 | ▲▲▲ | エコワークプレイスの提案 | |
| | EOM（エコオフィス・マネジメント）の開発：環境配慮型ビジネスの創造 | エコビジネスの事業化 | エコビジネスの提案実施 | ▲▲▲ | エコビジネスの提案 | |
| | EOM（エコオフィス・マネジメント）の開発：環境配慮型プロモーションの実践 | ワーキングショールームでの展開 | ワーキングショールームでの展開準備 | ▲▲ | ショールームを活用したエコワークプレイスの提案 | |
| 6 廃棄物の削減とリサイクル促進 | 廃棄物の削減とリサイクル：産業廃棄物排出量の削減 | 売上高原単位で前年比1%削減 | 売上高原単位で前年比 101.9% | ▲ | 売上高原単位で前年比1%削減 | ➡P30〜31 |
| | 廃棄物の削減とリサイクル：産業廃棄物のリサイクル促進 | リサイクル率目標2012年98% | リサイクル率 99.1% | ▲▲▲ | リサイクル率目標2012年98% | |
| | 廃棄物の削減とリサイクル：事業系一般廃棄物排出量の削減 | 売上高原単位で前年比1%削減 | 売上高原単位で前年比107.2% | ▲ | 売上高原単位で前年比1%削減 | |
| | 廃棄物の削減とリサイクル：事業系一般廃棄物のリサイクル促進 | リサイクル率目標2012年99% | リサイクル率 98.3% | ▲▲ | リサイクル率目標2012年99% | |
| 7 水資源の保全 | 生産活動に伴う水資源使用量の削減 | 生産高原単位で前年比1%削減 | 生産高原単位で前年比 7.0%削減 | ▲▲▲ | 生産高原単位で前年比1%削減 | |
| 8 環境マネジメントシステムの継続的改善 | グループとしての環境管理活動 | グループ会社のEMS推進 2012年全連結子会社のEMS構築完了 | グループ会社へのEMS構築支援実施 | ▲▲ | グループ会社のEMS推進 2012年全連結子会社のEMS構築完了 | ➡ P33 |
| | グリーン購入・調達の実施（生産部門） | グリーン調達のしくみの運用 2012年 主要調達先グリーン調達率90% | 主要調達先グリーン調達率 84.4% | ▲▲ | 2012年 主要調達先グリーン調達率 90% | ➡ Web |
| | グリーン購入・調達の実施（仕入製品） | 仕入先のグリーン調達推進 2012年 主要仕入先グリーン調達90% | 主要仕入先グリーン調達率 94.9% | ▲▲▲ | 2012年 主要仕入先グリーン調達 90% | |
| | グリーン購入（全社） | 全社・グループ会社グリーン購入の推進 | 全社・グループ会社グリーン購入の枠組み見直し | ▲ | 全社・グループ会社グリーン購入の推進 | |
| 9 社会貢献 | 環境教育への貢献 | 社外環境教育の推進 | 社外からの依頼を受け環境セミナー等を実施 | ▲ | 社外環境教育の推進 | ➡ P25 |
| | 地域に貢献できる活動の実施 | 全社・グループ会社での地域貢献活動推進 | 東京都中央区の「中央区の森」において森林保全活動を実施。地域の清掃や美化への参加 | ▲▲ | 全社・グループ会社での地域貢献活動推進 | |
| | エコマインドあふれる社員の育成 | 全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成 | エコキャップ活動やステナイBOOK活動など一人ひとりが参加できる活動の推進 | | 全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成 | |

# 地球温暖化防止

## 事業活動全体での$CO_2$削減を進めています。

エコサイネージによる環境活動の見える化

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/warming.html

### ●環境負荷の低い工場を目指しています

イトーキでは、高効率な設備、自然エネルギーの導入、組織体制の確立など、環境負荷の低い工場づくりに積極的に取組んでいます。具体的なアクションとしては、ECCJ省エネルギーセンターによる工場の省エネ診断を実施。その結果を踏まえ、2007年度から独自に策定した省エネ3カ年計画を進めています。省エネ3カ年計画の目標達成のために、工場では、工場長をはじめとする全部門の省エネ推進組織体制を確立。エネルギー管理員を中心とした省エネ委員会を設置し、組織的な管理体制によるエネルギーの監視、改善を行っています。

→$CO_2$排出量の詳細データはP35をご覧ください。

■ 千葉工場に導入された太陽光パネル

### ●エネルギー管理の知識を強化しています

関西工場（デスク・パネル）と滋賀事業所（キャビネット、チェア、電子機器、および滋賀ロジスティクスセンター）の2カ所が省エネ法の第2種エネルギー管理指定工場にあたり、エネルギー管理員を置くことが義務付けられています。イトーキは、「より多くの社員が省エネの専門知識を持って自発的に活動すべきである」という考えのもと、教育研修を積極的に実施。法的に義務付けられた人員を超えた数のエネルギー管理員を養成し、日常的な管理業務や改善業務を推進しています。

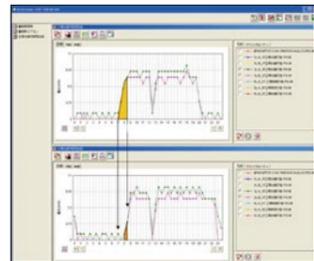
### ●エネルギーの使用状況を監視しています

生産工程や各設備単位の省エネルギー対策のため、エネルギーの使用状況をリアルタイムに監視できる「エネルギー監視システム」を関西工場（デスク・パネル）および滋賀事業所、千葉工場に設置しています。これらの監視データをもとに、設備の運用面も含めた省エネルギー施策を実施しています。

## 工場での改善事例

各工場では、照明器具、空調、生産にかかわる電気使用設備を省エネタイプのものに更新したり、それぞれの運用を工夫したりすることにより、エネルギー使用の合理化をはかっています。各省エネルギー施策に加えて、現場での気づきや改善アイデアの見える化など全工場を挙げて情報共有を行うことで、省エネ活動の推進を加速しています。

**●エネルギー監視システムによる改善例**

コンプレッサの運用において、朝の立ち上げ時間を原因としたロスを発見。電源を入れる時間を調整することで年間約10%のエネルギー削減につながりました。

**●日常管理ボードを活用した改善活動**

職場に掲示したボードで問題点や課題を共有。情報の見える化だけでなく、気づきや意見を記入してもらうことで、コミュニケーションの活発化を促し、改善活動の推進力となっています。

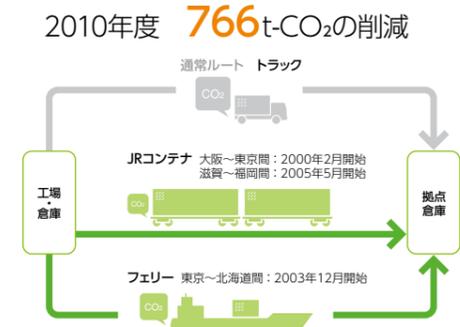
### ●物流過程での$CO_2$削減を進めています

イトーキは貨物の委託輸送量が年間3,000万トンキロ以上の省エネ法上の特定荷主として、委託先と協力して物流プロセスにおける省エネルギーの実現に取組んでいます。

**・モーダルシフトの推進**

工場や物流センターの基幹輸送における製品の輸送手段を見直し、環境負荷の低減を図っています。トラック輸送から、より$CO_2$排出量の少ない海上コンテナおよびJRコンテナ輸送を大阪・東京間など13経路で採用しています。

■ モーダルシフトによる$CO_2$削減量

2010年度 766t-$CO_2$の削減

**・コンテナ直送の推進**

海外生産品の輸送では、海上コンテナで国内の倉庫に一旦運び、そこでさらに小分けにしてからそれぞれ得意先に納入していた工程を、コンテナ単位で海外から得意先に直送できるように工夫しています。輸送距離を短くし、年間エネルギー使用量の削減を図っています。

**・エコドライブ研修の奨励**

輸配送の委託先に対して、各都道府県トラック協会の行うエコドライブ研修の受講を推奨しています。燃費の向上や燃料使用量の削減をねらいとしています。

### ●オフィスでの省エネルギーを進めています

エコオフィス活動として各地区ごとに電力の削減目標を立て、照明や空調の適正化を行っています。2005年度から政府が進める地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25」の一環として、夏にはクールビズ、冬にはウォームビズを全社で実施しています。2006年からは、ライトアップ照明などを全国で一斉に消灯する「$CO_2$削減／ライトダウンキャンペーン」にも参加しています。2010年度は、6月21日～7月7日の18日間にオフィスビル・工場・寮など8施設で実施しました。

東京ショールーム、大阪ショールームでは、LED照明やタスク&アンビエント照明の採用、オフィスの空間レイアウトや働き方も含めた省エネオフィスを展開しています。

### ●国内排出量取引制度の試行スキームにエントリーしています

低炭素化社会の実現に向けて経済産業省が実施する国内排出量取引制度の試行スキームにエントリーしています。この制度は、各企業が自主的に$CO_2$排出削減目標を設定した上で、自らの削減努力に加えて、排出枠・クレジット取引を活用し、削減目標の達成を目指す仕組みになっています。多くの企業の参加により、実効性のある仕組みの構築とそれによる国内$CO_2$排出量の削減が期待されています。

**イトーキのエントリー情報**

| | |
|---|---|
| 【参加年度】 | 2010年、2011年、2012年の3年 |
| 【対象事業所】 | 東京ショールーム、大阪ショールーム、滋賀工場の3事業所 |
| 【削減目標】 | 直近3カ年（2007年～2009年度）の$CO_2$排出量の平均値を基準値とし、毎年1%減ずつ削減<br>＝2010年1%減、2011年2%減、2012年3%減 |

■ クールビズのポスター

## オフィスでの改善事例

窓側に共有スペースを設けるレイアウトとすることで、太陽光を有効に活用。昼間は窓側の照明を消灯し、省エネルギーにつなげています。（東京ショールームの様子）

# 資源の有効活用

## すべての資源の3Rに徹底して取組んでいます。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/resource.html

### ●すべての生産拠点でゼロエミッションを達成しました

各工場から排出される廃棄物の発生の削減を行うとともに、「ゴミ」ではなく大切な資源として再使用・再生利用を行い、埋立てゼロのゼロエミッションを推進しています。2002年度に、寝屋川工場（現在の関西工場 デスク・パネル）がゼロエミッションを達成後、2006年度までに滋賀工場（キャビネット、チェア）、金庫製造部門で達成しました。以降、電子機器部門、千葉工場でも達成し、現在は、すべての生産拠点でゼロエミッションを達成しています。

また、オフィスでも2006年に本社ビル（今福）でゼロエミッションを達成しました。

### ●分別リサイクルを徹底しています

工場の廃棄物は、紙、金属、プラスチックといった素材ごとに分別され、定められた廃棄場所で管理されます。また、ものづくりの現場では、製造過程から出る廃材の有効利用もテーマとなります。たとえばチェアの工場では、生産工程で発生したプラスチックの廃材（スプール・ランナー）を粉砕し、樹脂材料に戻してリサイクルしています。

■ 関西工場（デスク）の分別回収場所

■ 社員教育の様子

### ●梱包材の再利用と省資源化に努めています

1回ごとの使い捨てではなく、繰り返し使用できる梱包材として通函（かよいばこ）を導入しています。また、製品へのノックダウン構造の採用や、製品ごとの適正な梱包形態を再検討し、可能な限りの簡素化や素材の統一を行っています。これにより、省資源化やお客様の分別廃棄の手間をなくすように努めています。

■ 通函による段ボール節約量

2010年度 **56,713**ケース（54t）の節約

### ●製造過程から出る廃材を有効利用しています

チェアの生産工程で発生した廃材をリサイクルしているほか、蛍光灯や乾電池なども業者と契約し、積極的なリサイクルに努めています。

■ スプール・ランナーの有効利用

チェアの生産工程で発生したプラスチックの廃材（スプール・ランナー）を粉砕し、樹脂材料に戻してリサイクルしています。

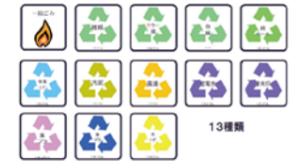
① 樹脂成型後金型から取り出された樹脂成型品
② 金型の樹脂流入口から必要な形を得る成型品形状部分をつなぐ部分をスプール・ランナーといい、成型後は不要
③ このスプール・ランナーを集め粉砕し、樹脂材料として再利用
④ 樹脂成型材料を溶かし、金型内に溶けた樹脂を射出する

### ●廃棄物、リサイクルガバナンスを強化しています

イトーキでは、「社内外の関係者を含めた体制構築」「社内の体制構築」「自社の取組み状況の情報発信・情報共有」などをポイントに、廃棄物・リサイクルガバナンスの強化に取組んでいます。ゼロエミッションを実現・維持していくには、信頼できる業務委託先との協力が不可欠です。イトーキでは、自社独自の評価表を作成し、契約前に委託先の徹底評価を行うとともに定期的に委託先状況の確認を行っています。

社内体制において最も重視しているのが、社員の分別意識の向上です。リサイクルフローの理解を図る教育研修を積極的に行っています。研修では外国人従業員向けに通訳をつけ、全社員への浸透を目指しています。ほかにも、分別マークの工夫や現場長によるパトロールの実施など日々の分別活動を徹底するためにさまざまな活動を行っています。

■ 独自に作成した委託先のチェックシート

■ 分別徹底のために13種類のリサイクルマークを採用

■ 現場長によるパトロール

### ●お客様の3Rに貢献します

汚れやしみを専用機材と低環境負荷の洗浄材で、あらゆる家具や素材をリフレッシュするクリーニングサービス。チェアやソファの張地やクッションの取替えはもちろん、木部の補修、再塗装などを行うリペア。オフィスの移転時などに、お客様の不用になった家具を廃棄せず、リペア・クリーニング、中古販売、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルによって、廃棄物ゼロを実現するオフィスエコロジーマネジメントシステム。イトーキはさまざまなサービスを通じて、自社製品を長く、大切に使っていただけるよう努めています。

■ クリーニングサービス

### ●物流センターでの3Rに取組んでいます

物流センターでは、梱包材や廃パレット等の資材のリサイクルに加え、お客様から下取りした家具を素材別に分別・解体し、リサイクルをする取組みを行っています。より多くリサイクルできる処理委託先の選定などを進め、2010年度の産業廃棄物リサイクル率アップを実現しました。

■ 2010年度に全国の物流センターで回収した製品・梱包材等のリサイクル率

2009年度 91.8%  2010年度 **97.7**%

(t)

| 物流センターで回収した製品・梱包材等 総量 | | | 2060 |
|---|---|---|---|
| | リサイクル量 | | 2013 |
| | | 金属類 | 973 |
| | | プラスチック | 965 |
| | | 木くず | 75 |
| | 焼却・埋立処分量 | | 47 |

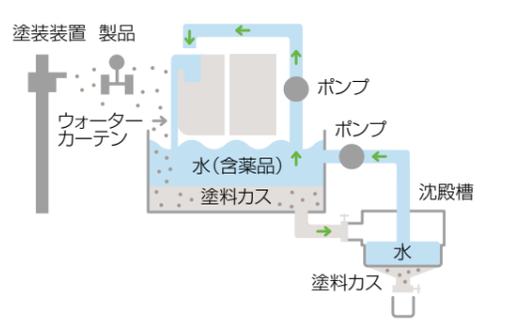
※プラスチックには製品の梱包材を含みます。
木くずには廃パレットなどを含みます。

→廃棄物等総排出量とリサイクル率の詳細データはP35をご覧下さい。

### ●水資源を大切に使っています

水の循環利用や節水機器の導入を進めることで、工業用水の使用量を削減しています。デスクの塗装ラインでは、従来、塗装ブース内のウォーターカーテンに使用した水は、塗料を多く含んでいるため、毎日新しい水と交換していました。そこで薬品の投与により塗料を分離・沈澱させ、上部の水だけを循環、再利用するようにしました。

また工場では、水を使わない粉体塗装を導入することで、水使用量の削減を実現しています。そのほか、排水処理での希釈水の改善、トイレや手洗い場の水量の調整など地道な節水活動を行っています。

■ ウォーターカーテンに使用した水の循環利用

→水使用量の詳細データはP35をご覧下さい。

## 有害物質の最小化

# 安全と健康を重視した ものづくりを進めています。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/toxics.html

### ●有機溶剤の削減に取組んでいます

イトーキでは、製品の塗装工程における有機溶剤の削減を進めています。1988年にデスクの塗装で有機溶剤系の塗料から環境負荷の少ない水溶性塗料に切り替えたことに始まり、2001年からは、メタリック塗料についても水溶性塗料に切り替えました。

また、有害物質を放散しない「粉体塗装設備」を積極的に取り入れています。2004年からキャビネットの塗装ラインの一部を粉体塗装に変更。2007年にはそのキャビネットの全塗装ラインを粉体塗装に切り替えました。2008年には新しく竣工した千葉工場の建材塗装ラインを粉体塗装と水性塗装とし、2009年1月からは、チェアの塗装ラインも粉体塗装に変更しています。

こうした取組みにより、PRTR法で定める報告対象物質（キシレンやエチルベンゼンなど）の取扱量および大気への排出量が大幅に減少しました。

■ PRTR報告対象物質の取扱量

2009年度 48t → 2010年度 28t
（前年比42%削減）

■ 粉体塗装

### ●製品使用化学物質のデータベースを管理しています

製品の安全性を確保するため、製品に使用されている化学物質については、VOC（揮発性有機化合物）等の対象物質の調査と、結果資料のデータベース化などを継続して行っています。また、洗浄シンナーのノントルエン化や、環境負荷の少ない塗装への切替えなど、VOC等の対象物質の取扱量の削減を行っています。

### ●安全な製品素材を採用しています

シックハウス症候群、化学物質過敏症など、健康に大きな影響を与える化学物質については、法規制や日本オフィス家具協会（JOIFA）が定めたガイドラインをもとに、管理・削減を推進しています。パーティクルボード、MDFや合板などの木質材は、ホルムアルデヒドの放散量が少ないF☆☆☆（スリースター）以上に切り替え、さらに放散量の少ないF☆☆☆☆（フォースター）も積極的に採用しています。

■ F☆☆☆☆の素材を天板に使用したデスク（インクルード）

### ●デスクマットにオレフィン系樹脂を採用しています

デスクマットの素材として使われてきたポリ塩化ビニル樹脂に含まれる可塑剤が人体に影響を与える可能性があることから使用を全面的に取りやめました。焼却しても有害なガスが発生しないオレフィン系樹脂を使用した「エコマット」を採用しています。

■ エコマットの使用例

## グループ企業の環境活動

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/group.html

# 地球環境への想いを グループ全体で共有しています。

### 伊藤喜オールスチール株式会社

**ゴミの分別と3R**

工場や事務所から出る廃棄物を誰でも細かく分別できるように、写真を付け色別表示をして全社員に教育することで3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進による廃棄物の再資源化と産業廃棄物の削減活動を進めています。

所在地●千葉県野田市尾崎2288 中里工業団地内
主要取扱い品目●ロッカー、書庫、カウンター、壁面収納家具、テーブル

### イトーキマルイ工業株式会社

**ゴミの削減は分別から**

OA用紙はシュレッダーに掛け、段ボールと分別して引取業者から古紙再生工場へ、ビニールゴミと可燃ゴミ、産業廃棄物等は、分別を徹底し資源の有効活用に役立てています。

所在地●新潟県長岡市中之島町901
主要取扱い品目●シューズロッカー、パソコンラック、ワゴン、収納家具、学校・医療施設家具

### 株式会社イトーキ大阪工務センター

**リペアサービスの取組み**

長年使用した家具を修理・張替え・部品交換等により再生するリペアサービスを行い、廃棄物を最小限に減らすことで地球環境に負荷をかけない努力をしています。

所在地●大阪府大阪市中央区平野町2-4-12 平二ビル
主要取扱い品目●オフィス家具の修理サービス、事務所移転、レイアウト作業、新規什器納入管理

### 三幸ファシリティーズ株式会社

**“建物の建て替えから改修へ”を推進**

“建物の建て替えからリニューアル「オフォスビル復活計画」へ”をお客様に提案し、お客様所有建物の内部・外部、そしてチェアを中心とした家具のリファインを通じて、地球環境に配慮したサービスを提供しています。また、自社においてはプリンタ、冷暖房などの節電やLED照明の導入などに取組んでいます。

所在地●東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル6階
主要取扱い品目●オフィス家具の販売、内装、外装、設備関連工事ほか

### 株式会社イトーキ工務センター

**リサイクルの促進による資源の削減**

事業としては、関東圏の産業廃棄物処理の収集運搬許可を取得し、収集した廃棄物について適正にリサイクル物と廃棄物を分別して廃棄物の削減に努めています。また社内においては、余剰文房具や現場で使用する水糸・墨出しテープを回収しての再利用を行い、資源の削減に努めています。

所在地●東京都中央区日本橋富沢町9-8 富沢町グリーンビル
主要取扱い品目●オフィス家具の営繕作業、事務所移転、レイアウト作業、新規什器納入管理

### 株式会社シマソービ

**地域緑化活動への取組み**

ゴミの分別、不在時の消灯、オフィスの省エネなど、従来からの「チームマイナス6%」活動はもちろん、「横浜市150万本植樹行動」にも参加。市内の緑化・植樹活動に参加することで、地域社会の活動にも貢献しています。

所在地●神奈川県横浜市中区羽衣町3-55-1 横浜センチュリービル
主要取扱い品目●オフィス家具、学校・医療福祉家具、OA機器、内装インテリア工事ほか

### 株式会社イトーキテクニカルサービス

**メンテナンスによる製品のライフサイクル延長**

地球環境への配慮から、高い技術と迅速かつ信頼性の高いサービスで、さまざまな分野の機器・設備を最適な稼動状態を維持することで、製品のライフサイクル延長を提案しています。社内では、服装や外気の調節により冷暖房の設定を抑制し、不在時、昼休みの消灯による、省エネに取組んでいます。また、印刷時の裏紙使用で無駄な資源の削減に努めています。

所在地●東京都中央区銀座2-16-7 電通恒産第3ビル
主要取扱い品目●各種設備機器および設備システムの保守管理業務

### 株式会社タイメック

**資源の分別**

ダンボール・梱包材および紙等について、再利用と分別によるリサイクルにより廃棄物の削減に努めています。また、定期的に工場周辺の清掃活動と消防訓練を実施しています。

所在地●茨城県常陸太田市岡田町2108-1
主要取扱い品目●回転保管庫および周辺機器、什器およびその他カスタマイズ製品

### 株式会社イトーキ東光製作所

**社内の節電を徹底**

$CO_2$削減のため、事務所では着席時のみの点灯としワークスペース以外や廊下など常駐作業が無い部分は消灯を徹底しています。また、事務所では約25%の蛍光管を外し無意識でも確実に「省エネ」が図れるよう取組んでいます。

所在地●茨城県坂東市鵠戸423-1
主要取扱い品目●金庫扉、貸金庫、遮音扉、特殊扉、移動壁、フリーアクセスフロア

### 富士リビング工業株式会社

**独自の植樹活動を実施**

雄大で美しい霊峰白山をはじめとする自然環境に恵まれ、自然共生を基調としたまちづくりを推進する白山市にあって、当社も工場の$CO_2$削減活動を積極的に推進しています。また、独自の緑化活動として、敷地内に、入社した人を記念する植樹を継続実施しています。

所在地●石川県白山市橋爪町346
主要取扱い品目●パイプチェア、ミーティング用チェア、テーブル、デスクパネル

### 株式会社イトーキマーケットスペース

**出荷業務の見直しで$CO_2$を削減**

京都物流センターでは、出荷業務の配車手配の分散化や時間配分を行うことで、2009年2月からフォークリフトを1台削減しました。これによって、経費削減に寄与するとともに、$CO_2$の15%削減を実現しました。

所在地●東京都中央区築地7-17-1 住友不動産築地ビル
主要取扱い品目●店舗用什器の販売、ストアプランニング

### 伊藤喜(蘇州)家具有限公司

**環境保護生産会社として認定**

廃棄物の分別とリサイクル化、各工程における効率化など、部門ごとに実施・確認を行いました。その活動が認められ、中国の環境保護生産会社として認定されました。

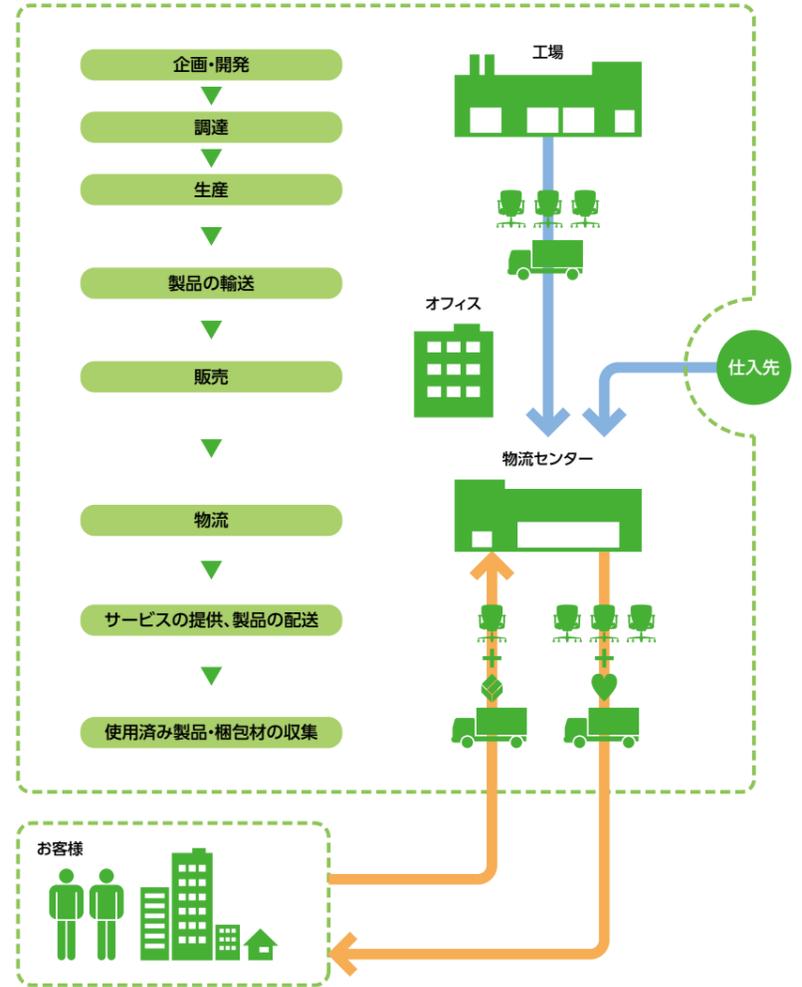
所在地●No.222 Hufuhuang Road Suzhang Village Liuhe Town,Taicang City,Jiangsu Province,China
主要取扱い品目●オフィス家具、商業施設用家具設備

グループ会社 http://www.itoki.jp/company/group.html

# 事業活動と環境負荷

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/action.html

## 設計・生産から販売まですべての事業活動に関わる環境への影響について報告します。

### イトーキの事業活動の範囲

## INPUT

**総エネルギー投入量 …… 377,657 GJ**
- 重油・軽油・灯油・ガソリン …… 847 kl
- LPG …… 969 t
- 購入電力 …… 22,080 千kWh
- 都市ガス …… 842 千m³

**水資源投入量 …… 109 千m³**
- 上水 …… 66 千m³
- 工業用水 …… 14 千m³
- 地下水 …… 28 千m³

**総物質投入量 …… 25,073 t**
- 金属類 …… 14,885 t
- プラスチック類 …… 1,222 t
- 木質類 …… 1,535 t
- 梱包材料 …… 1,148 t
- 紙類 …… 486 t
- 石こうボード …… 3,838 t
- コピー用紙、カタログ類 …… 103 t
- その他 …… 1,857 t

**化学物質取扱量 …… 28 t**
- キシレン …… 12 t
- トルエン …… 6 t
- エチルベンゼン …… 8 t
- 亜鉛の水溶性化合物 …… 1 t

## OUTPUT

**大気への排出量**
- $CO_2$ …… 21,901 t-$CO_2$
- NOx …… 3,129 kg
- SOx …… 1 kg

**水域への排出量 …… 109 千m³**
- 公共用水への排出量 …… 51 千m³
- 下水道への排出量 …… 58 千m³

**廃棄物等総排出量 …… 7,670 t**
- リサイクル量 …… 7,587 t
- 焼却・埋立処分量 …… 83 t

**オフィス関連製品販売量 …… 31,309 t**

■ **Input、Outputの集計範囲（2010年度）**

株式会社イトーキ：関西工場（デスク・パネル、金庫、スチール棚、研究施設）滋賀工場（キャビネット、チェア、電子機器）千葉工場（パーティション）物流センター エコオフィスサイト

※関西工場（金庫）については2010年10月より自社生産からOEM生産に移行したため範囲外となります。

■ **$CO_2$算出方法について**

$CO_2$排出係数については、環境省「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」（2006年4月公表）を参考にしました。電力の$CO_2$排出係数は、一律0.555t-$CO_2$/千kWhで算出しています。製品の輸・配送に関する$CO_2$排出量は、改正省エネ法（特定荷主）に準じた算出方法を採用しています。

■ **測定対象について**

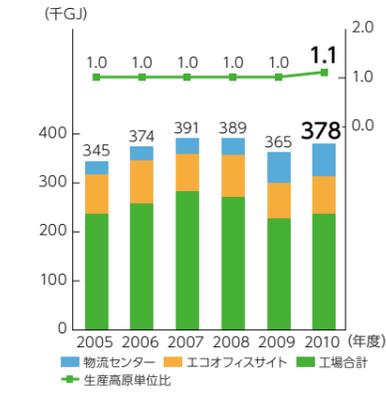
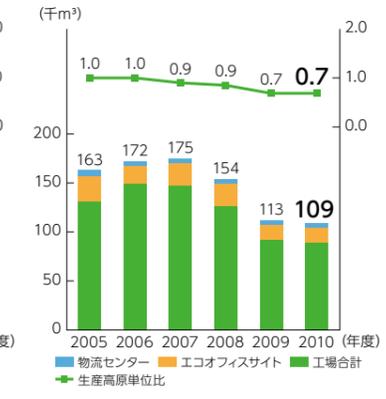
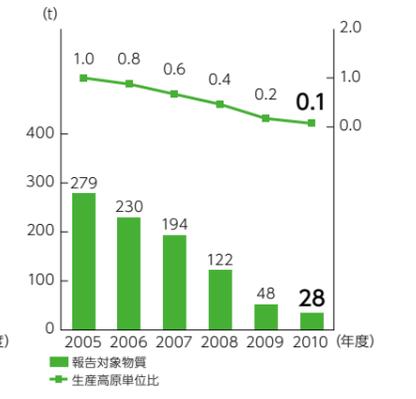
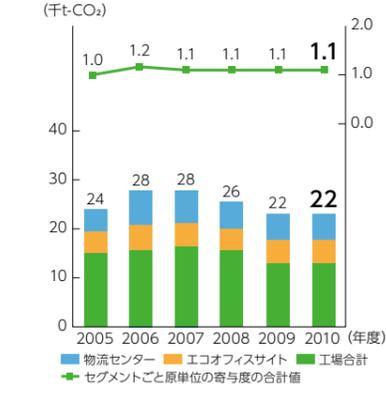
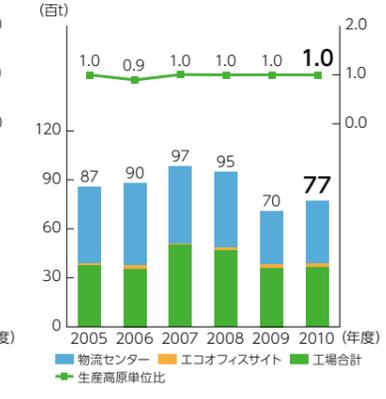
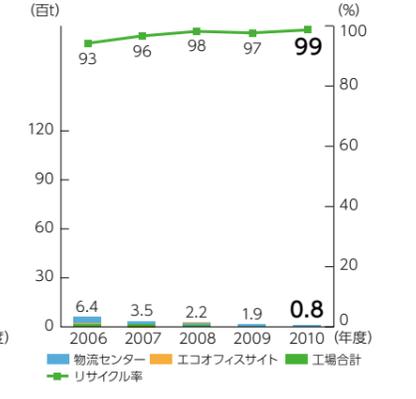
- **総エネルギー投入量**：重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、購入電力、都市ガスの使用量
- **水資源投入量**：上水、工業用水、地下水の使用量
- **総物質投入量**：原材料、資材として投入する資源の量、コピー用紙、カタログ類の量
- **化学物質取扱量**：年間1t以上取り扱うPRTR報告対象の化学物質の量
- **$CO_2$排出量**：燃料、電力などエネルギー起源の二酸化炭素の排出量
- **NOx、SOx**：ボイラーなどの設備から排出される量
大気汚染防止法施行規則に規定する算出方法の推定値を算出
- **廃棄物等総排出量**：有価物、一般廃棄物、産業廃棄物の量
- **リサイクル量**：マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの量
- **焼却・埋立処分量**：単純焼却、埋立処分の量



# 環境パフォーマンス

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/performance.html

## それぞれの事業場が環境負荷の低減に挑戦し続けています。

## INPUT 経年変化

## OUTPUT 経年変化

## 経年変化グラフ

■ **工場合計について**

エコオフィスと物流センターを除いた工場の合算値です。

■ **生産高原単位比について**

工場合計実績/生産高で算出しています。また、2005年6月1日に製造部門と販売部門が企業統合したため、2005年を基準年にしています。

■ **寄与度の合計値について**

寄与度の合計値は、エネルギーの使用の合理化に関する法律における「エネルギー使用と密接な関係を持つ値（原単位の分母）を事業者全体でひとつに設定できない場合」に準拠して算出しています。

■ **PRTR報告対象物質取扱量について**

グラフ内の数値は、年間1t以上取り扱うPRTR報告対象物質の合算値です。

■ **廃棄物等総排出量について**

物流センターには、お客様から引き取った使用済み家具を含みます。